

経営比較分析表（平成30年度決算）

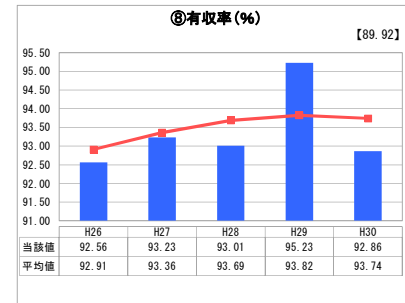
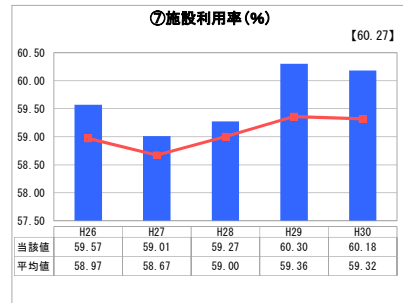
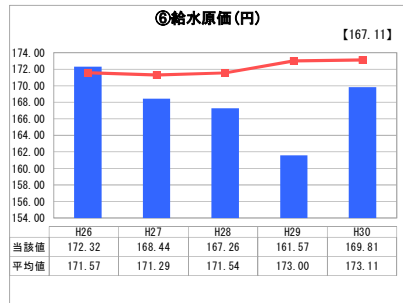
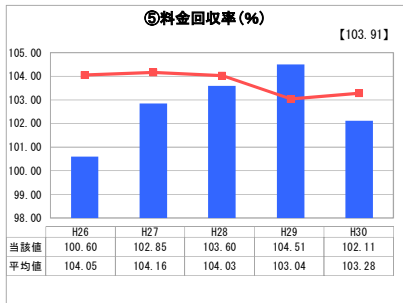
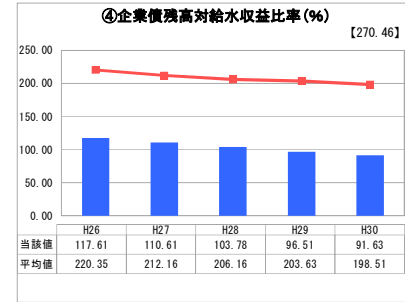
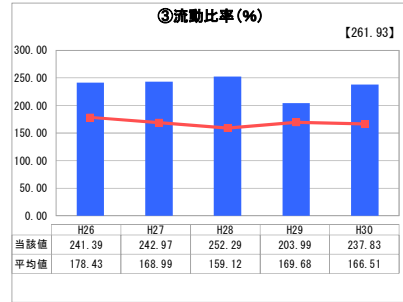
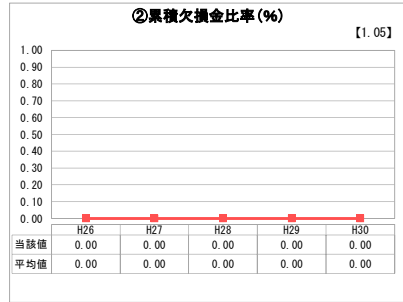
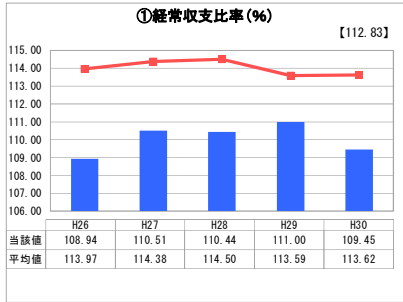
兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	86.09	99.80	2,516	

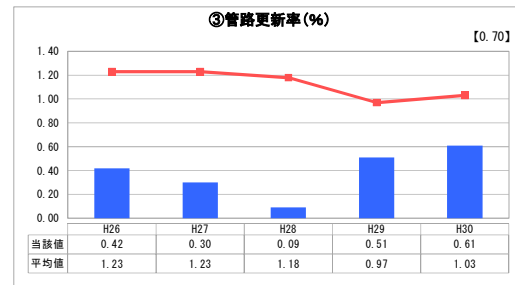
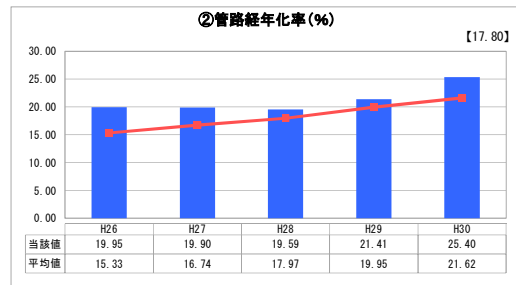
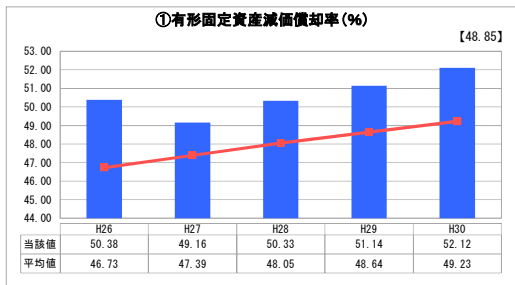
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,538,025	557.02	2,761.17
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,519,586	287.34	5,288.46

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び⑤料金回収率はそれぞれ100%を超えており、また、⑥給水原価は類似団体との比較では、低い値となっているが、給水収益が減少傾向にあることや今後、更新投資の増加により減価償却費の増が見込まれることから、更なる費用の削減に努める必要がある。

④ 企業債残高対給水収益比率は今後も他の財源を活用し、当面の間は企業債の借入を行う予定がないことから、引き続き割合は減少する見込みである。

⑦ 施設利用率は類似団体との比較で、高い値となっているが、将来の給水人口の減少を踏まえ、計画的な更新に加え、ダウンサイジング等を進めることにより、更なる向上を図っていく。

⑧ 累積欠損金比率は0%であり、③流動比率も200%を超えていることから、資金面においても、支払能力があり、現状は健全な企業経営が行えていると考えている。

2. 老朽化の状況について

類似団体との比較では、①有形固定資産減価償却率、②管路経年率は高くなっている。これは施設の延命化・長寿命化を図り、投資の抑制を行ってきたためである。

また、③管路の更新率については、布設年度や土壌の状況、影響度等を踏まえ、優先順位を定めながら、更新を進めており、平成28年度からは数値が伸びているものの、類似団体との比較では、低い値となっているが、引き続き、計画的な更新に努めていく。

全体総括

給水収益の減少や経年化施設の大量更新など厳しい経営状況が見込まれるが、適切な施設規模での更新や維持管理費の削減など更なる経営改善に努めていく。

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

兵庫県 神戸市
【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 106,000	類似団体区分 中規模	施設数 1	1日平均配水量(m ³) 47,128
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 73.4	給水先事業所数 70	契約水量(m ³ /日) 88,464	管理者の情報 自治体職員	

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び⑤料金回収率はそれぞれ100%を超えており、⑥給水原価は類似団体との比較では、高い値となっているものの、⑦施設利用率、⑧契約率は上回っている。
また④企業債残高対給水収益比率は、減少傾向であるものの、今後更新投資の増加により、企業債残高は一時的に増加する見込みとなっているものの、現時点では、②累積欠損金比率は0%であり、③流動比率も200%を超えていることから、資金面においても、支払能力があり、現状は健全な企業経営が行えていると考えている。

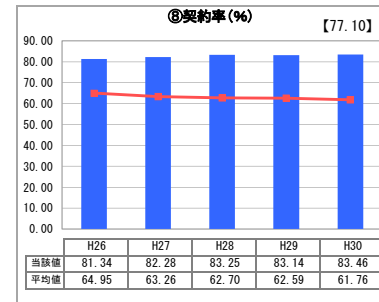
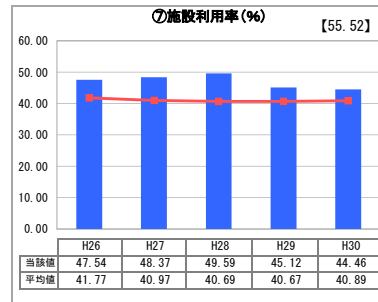
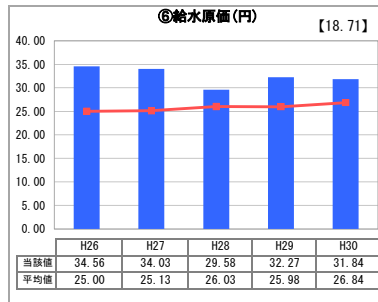
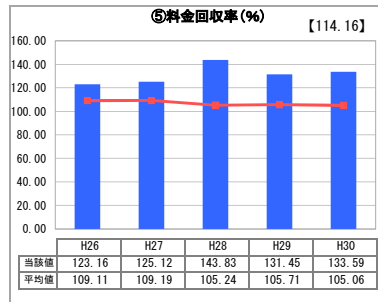
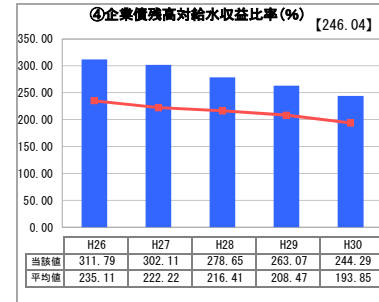
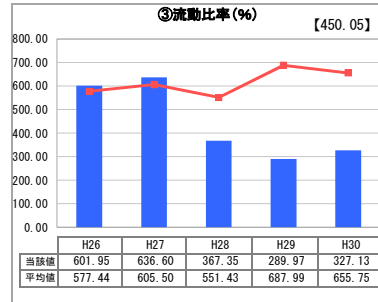
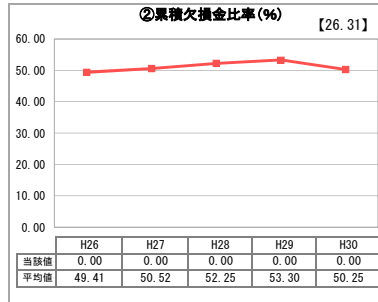
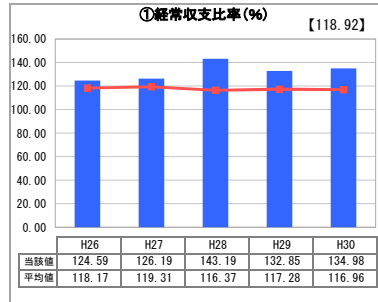
2. 老朽化の状況について

類似団体との比較では、①有形固定資産減価償却率、②管路経年率は低くなっている。これは昭和39年度に給水開始したことから、法定耐用年数を上回る資産が少ないことや計画的な更新に努めてきたためである。
また、③管路の更新率については、平成24年度から「第3次改築事業」として、配水管の更新に取り組んでおり、引き続き、計画的な更新に努めていく。

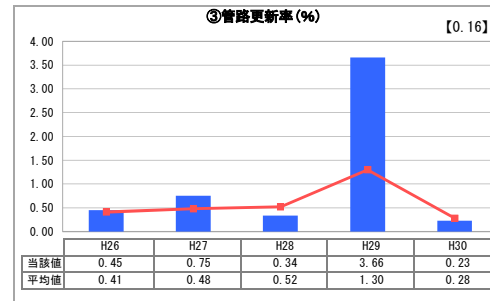
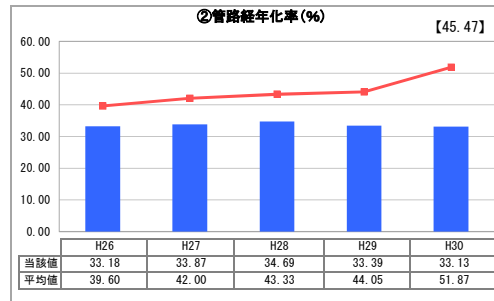
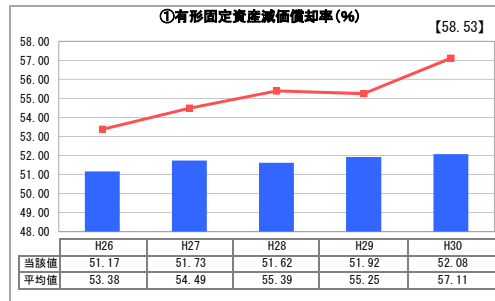
全体総括

水需要の合理化や今後発生が見込まれる経年化施設の大量更新などを見据えつつ、引き続き、持続的・効率的な安定給水と経営基盤の強化に努めていく。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 神戸市

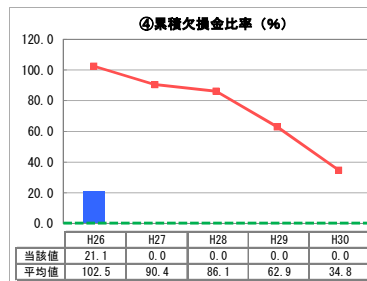
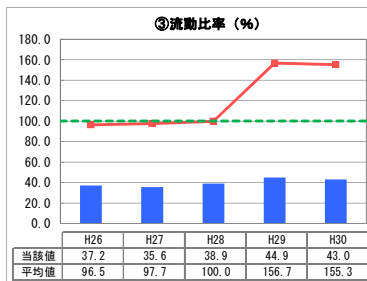
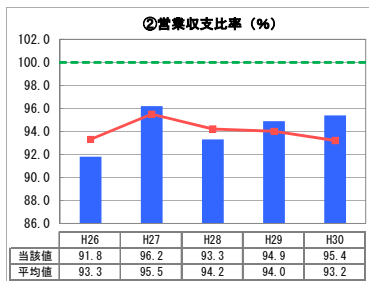
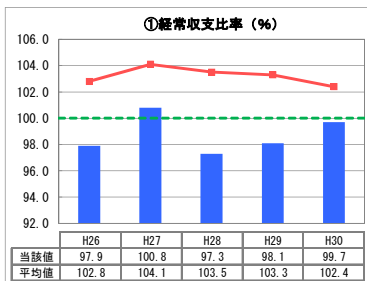
業務名	業種名	事業名	管理者の情報
法適用	交通事業	自動車運送事業	自治体職員
資金不足比率 (%)	営業路線 (km)	年間走行キロ (千km)	在籍車両数 (両)
18.3	374.8	17,261	514
職員数 (人)	管理の委託割合 (%)	民間事業者の有無	地域公共交通網形成計画策定の有無
378	47.4	有	有

※民間事業者の有無とは、行政区域内で民間バス事業者が運行しているかどうかを指す。

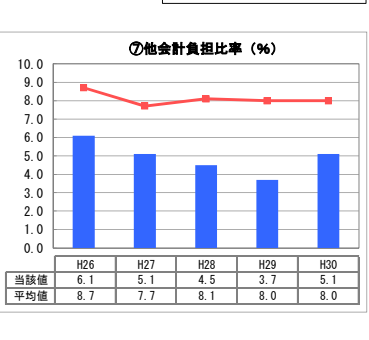
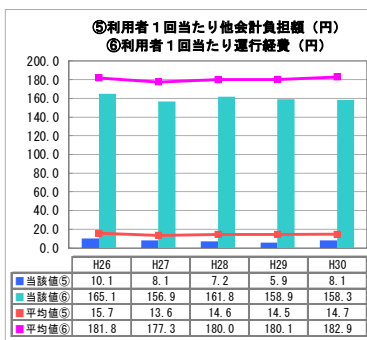
	H26	H27	H28	H29	H30
年間輸送人員 (千人)	69,089	69,380	68,348	68,168	66,879
他会計負担額 (千円)	697,425	558,720	494,450	401,363	538,905

1. 経営の健全性

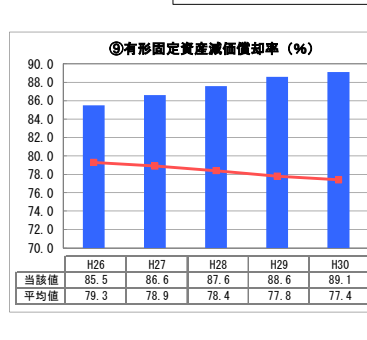
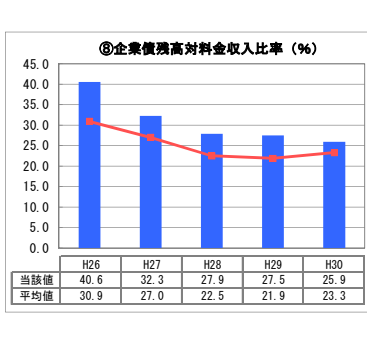
○事業の状況



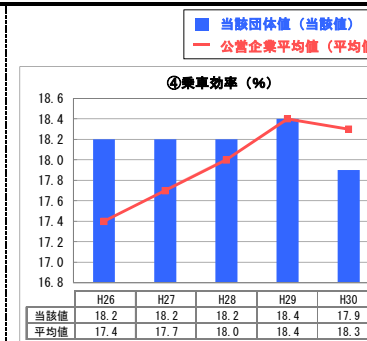
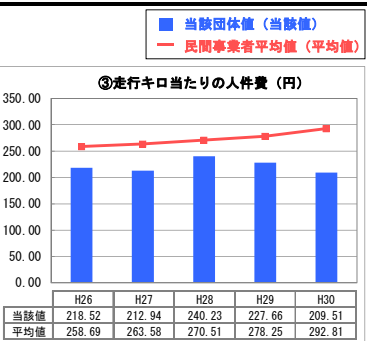
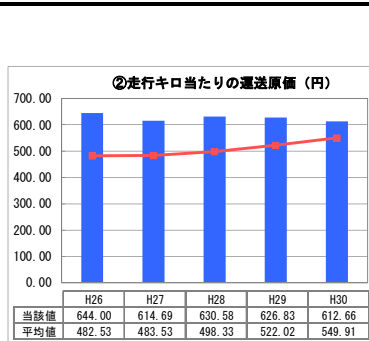
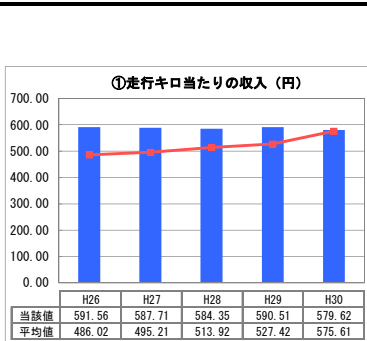
○独立採算の状況



○資産及び負債の状況



2. 経営の効率性



※民間事業者平均値は当該団体が所属する標準原価ブロックの民間平均値

分析欄

1. 経営の健全性について

事業の状況については、④累積欠損比率は0%であるが、過去に発行した企業債の償還のための資金を確保できていないことから、③流動比率は目標値及び公営企業平均値をいずれも下回っており、短期的な債務の支払能力が低いと考えられる。

また、人口減少や少子高齢化等の影響に加え、西日本豪雨および台風の影響等により乗車人員が減少していることにより、①経常収支比率と②営業収支比率は100%を下回っている状態である。

次に独立採算の状況については、⑥利用者1回当たり運行経費は経営改善等により引き続き減少傾向にある。一方⑤利用者1回当たり他会計負担額、および⑦他会計負担比率はいずれもH30年度に増加しているものの、他公営企業平均値と比較すると2分の1〜3分の2程度の水準にあることから、比較的独立採算制は高いと考える。

最後に資産および負債の状況については、平成25年度よりバス車両の使用年数を12年から18年に延長した影響もあり、⑧企業債務高対料金収入比率は減少傾向にあるが、一方で⑨有形固定資産減価償却率は増加傾向にあり、今後のバス営業所の大規模改修やバス車両の更新に備える必要がある。

2. 経営の効率性について

①走行キロあたり収入は、民間平均よりも多いものの、乗車人員の減少により前年度より減少している。

③走行キロ当たり人件費は、営業所の管理委託を進めていることにより民間事業者平均よりも低くなっているが、②走行キロあたり運送原価は、民間事業者平均よりも高い水準にあり、人件費及び管理委託費を含む運行経費が民間事業者よりも高くなっている。

④乗車効率は、乗車人員がH29年度と比較し年間約129万人減少した一方、年間走行キロや乗車定員は大きく変化していないことから、0.5%減少となっている。

全体総括

全体としては、各事業者平均値と比較すると、良好な指標もあるが、流動比率が低いことに加えて、平成30年度も引き続き経常収支が赤字となっており、今後も設備更新による減価償却費・企業債務高の増加が見込まれることなどから、厳しい経営状況となっている。

自動車事業における経営改善策の1つとして、8営業所中5営業所の管理委託を行っており、委託率は車両数で7割と公営事業者の中でも高いが、キロ当たり運送原価は依然として民間事業者平均よりも高くなっており、H30年度においては乗車効率も悪化している。さらなる路線再編による運行の効率化と人件費の低減に努め、経営の効率化を図っていく。

平成30年度から抜本的な収支構造の改善を図るため、経営の見直しを行っているが、さらなる人件費の抑制や路線再編による運行の効率化に努めるなど経営改善に取り組みとともに、令和2年度は、年度内の経営戦略の策定に向け、検討作業を行っている。

経営比較分析表（平成30年度決算）

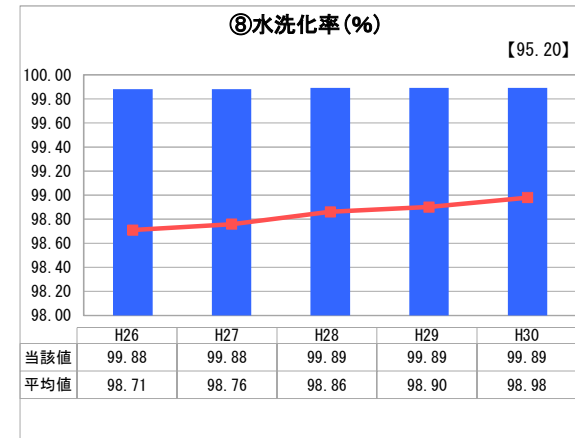
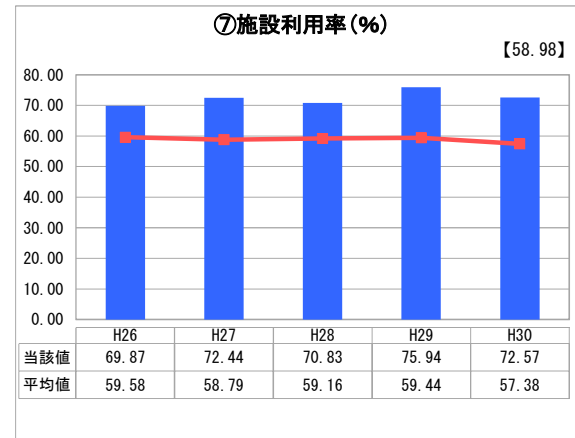
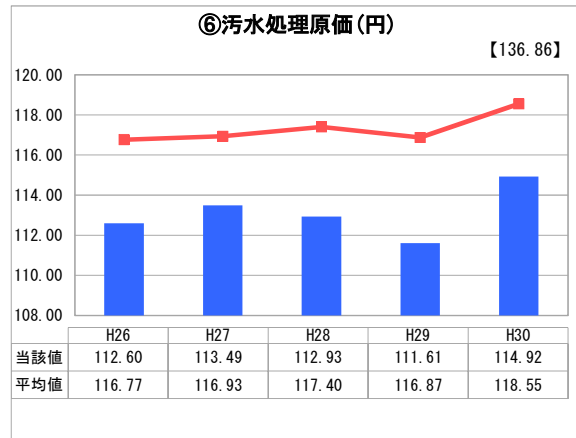
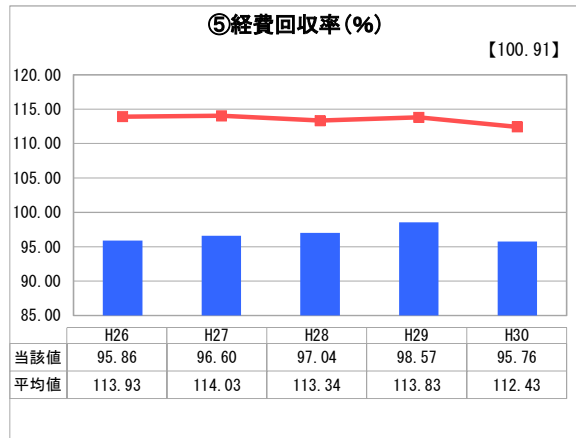
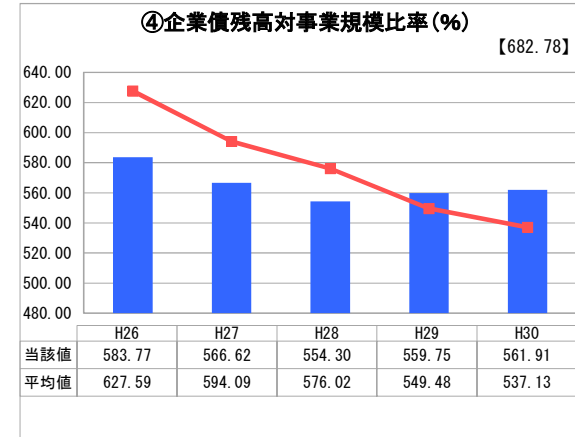
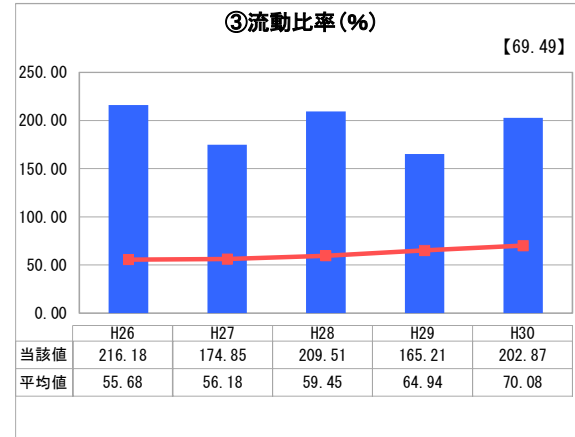
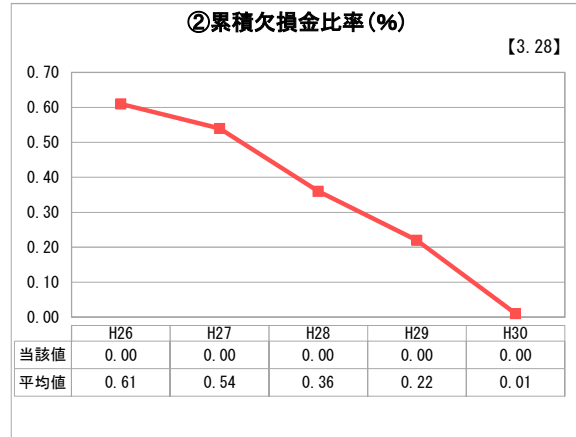
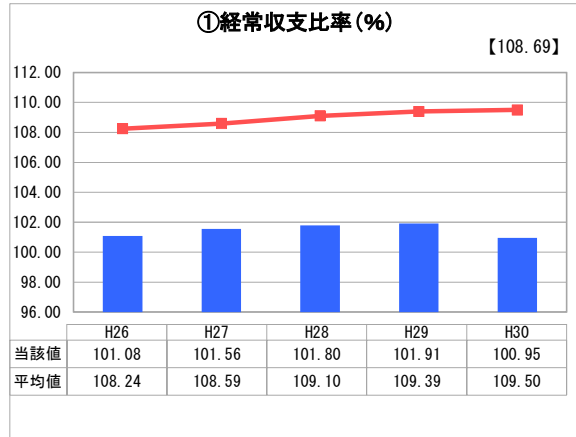
兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	政令市等	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	76.74	97.71	92.42	1,566

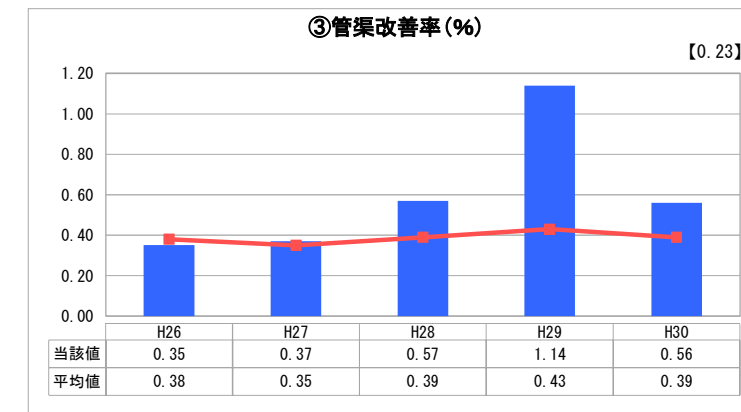
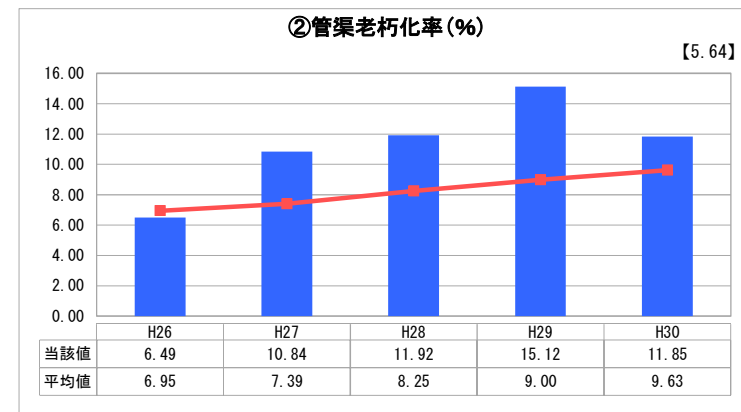
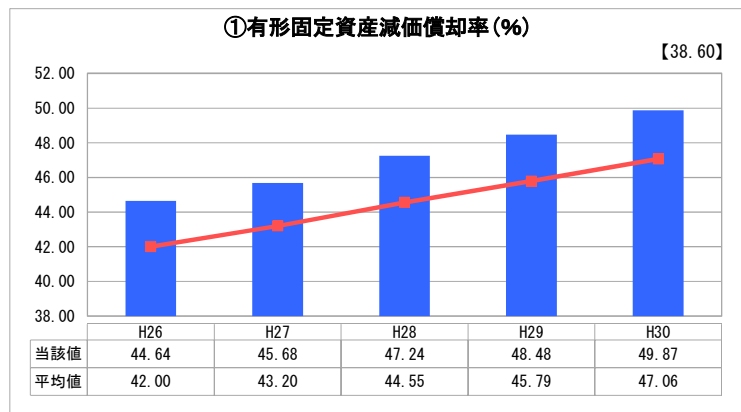
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,538,025	557.02	2,761.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,497,732	170.56	8,781.26

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①は、類似団体平均をやや下回っているが、100%は超えている。施設の老朽化が進む中、今後更なる改築更新が必要であることから、引き続き経営の効率化を進めていく。
 ②は、平成26年度の会計制度の見直し以降、黒字決算となったため、累積欠損金が0となっている。
 ③は、現預金を十分に確保しており、類似団体平均よりも高く十分な支払能力がある状態である。
 ④は、これまで企業債残高の削減に取り組んできたが、平成29～30年度は、施設の老朽化による改築更新事業の増加に伴い、類似団体平均をやや上回っている。
 ⑤は、100%を下回っており、回収すべき経費を使用料で十分に賄えていない状態にある。令和2年4月1日に使用料改定を行う予定であり、これにより令和2年度以降は100%を上回る見込みである。
 ⑥は、これまでの維持管理の効率化により、類似団体平均よりもやや下回っている。今後も維持管理の効率化を行っていく。
 ⑦は類似団体平均よりも高く、概ね適切な施設規模と考えられる。
 ⑧水洗化を助成する制度の活用などにより、概ね100%に近い数値となっている。

2. 老朽化の状況について

①、②、③については、類似団体平均よりも上回っている。これは、昭和40年代後半に集中的に整備した管きょ、処理場、ポンプ場の老朽化が進んでおり、法定耐用年数を超える施設が今後増加していく。そのため、事業費の平準化を図りながら、改築更新のペースを加速させていく。

全体総括

「1. 経営の健全性・効率性」では、⑤が類似団体と比較すると低い状況にある。「2. 老朽化の状況」では、類似団体と比較すると老朽化が進んでいる状況にある。今後、人口減少による有収水量の減少により、下水道使用料の減収が見込まれる一方で、老朽化した施設の改築更新費用が増加する見込みであるため、令和2年4月1日に使用料改定を実施する予定である。これにより、⑤を100%以上とし、さらに改築更新の平準化を図ること、健全かつ効率的な経営を実施していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	44.22	1.02	100.00	1,566

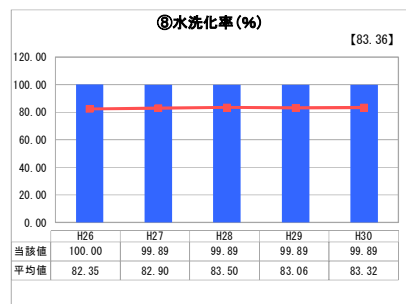
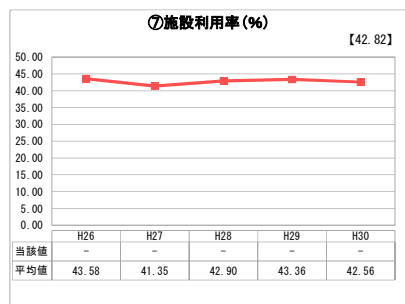
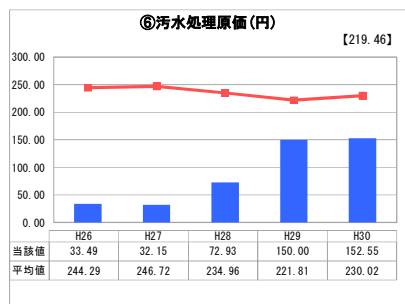
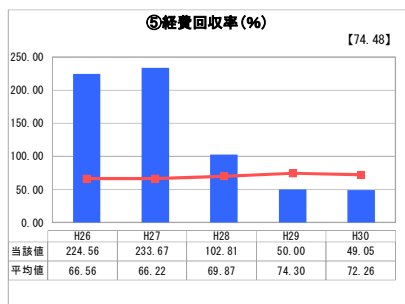
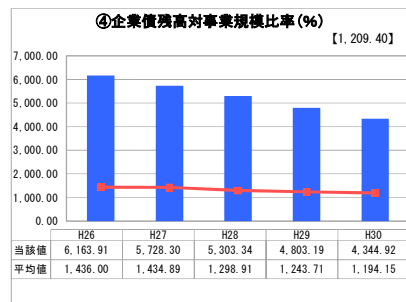
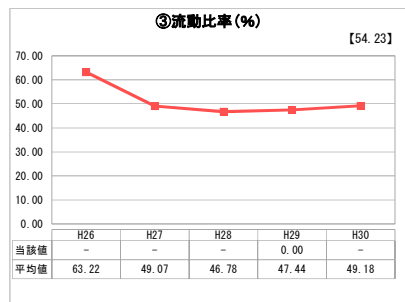
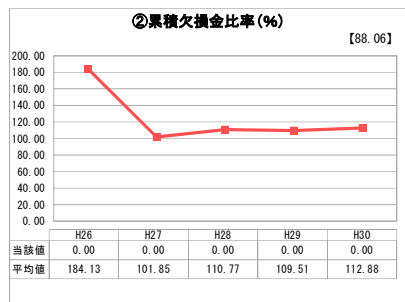
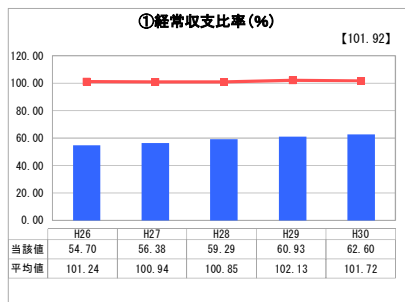
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,538,025	557.02	2,761.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
15,599	1.39	11,222.30

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

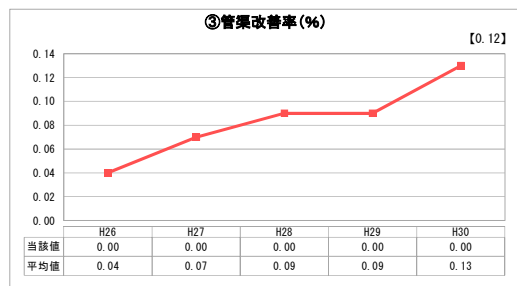
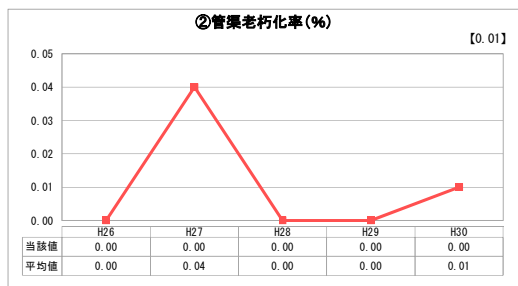
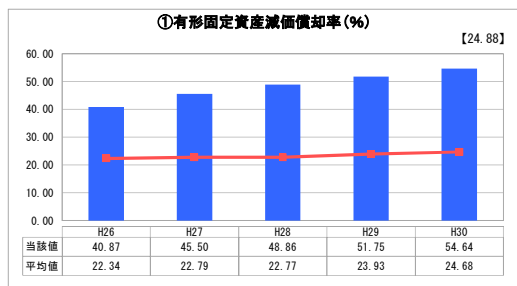
1. 経営の健全性・効率性について

特定環境保全公共下水道は、市街化調整区域の一部において公共下水道の整備を行ったものであり、処理区域内人口が約15,000人であり、使用料収入が少なくなっている。そのため、①や④については、費用や企業債残高に対する収益が少ない。

2. 老朽化の状況について

①については、類似団体より数値が高く、施設の老朽化が進んでいるため、今後の改築更新に備える必要がある。法定耐用年数を経過した管渠はまだ存在しないため、②や③の指標は0となっている。

2. 老朽化の状況



全体総括

公共下水道を含めた下水道事業全体として、今後、下水道使用料収入が減少傾向にある一方で、老朽化した施設の改築更新費用が増加する見込みであるため、令和2年4月1日に使用料改定を実施する予定である。これにより、健全かつ効率的な経営を実施していく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 三宮駐車場

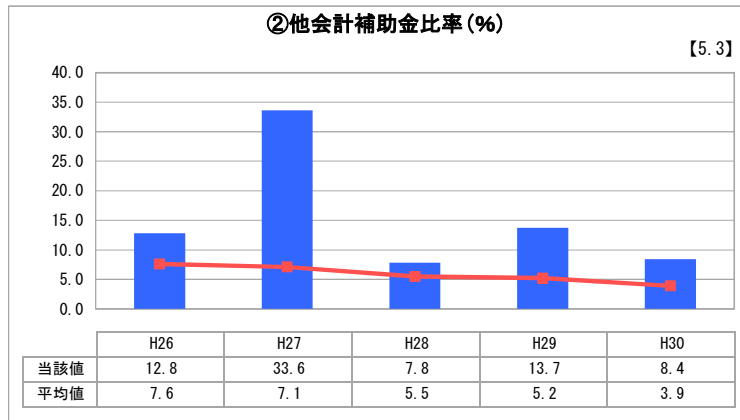
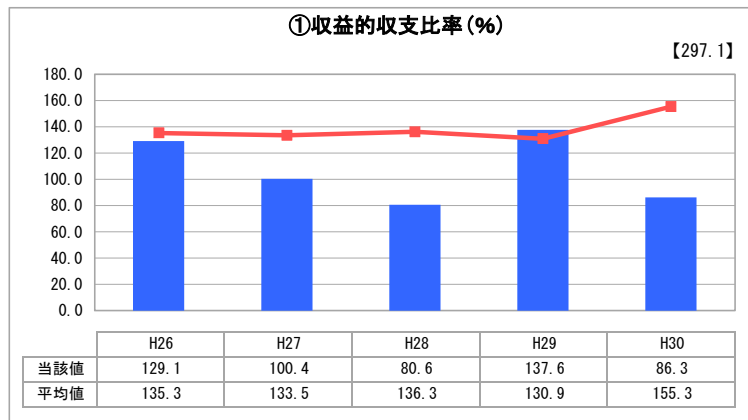
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	51	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(㎡)
公共施設	無	25,110
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
534	400	代行制

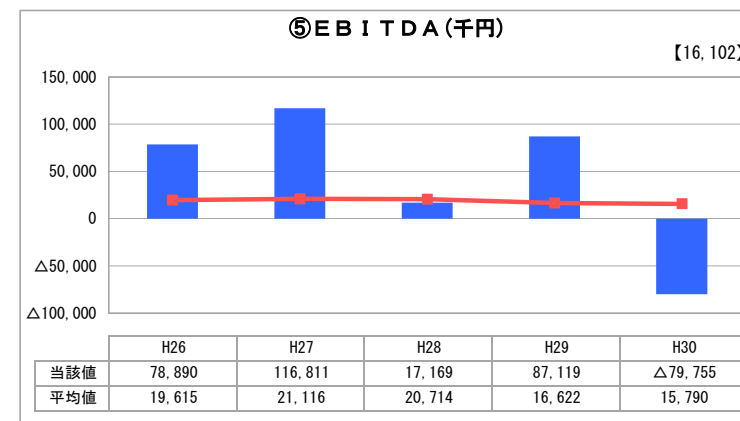
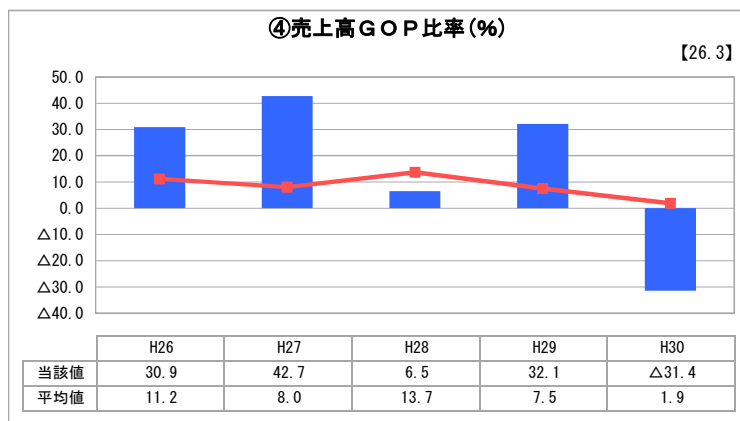
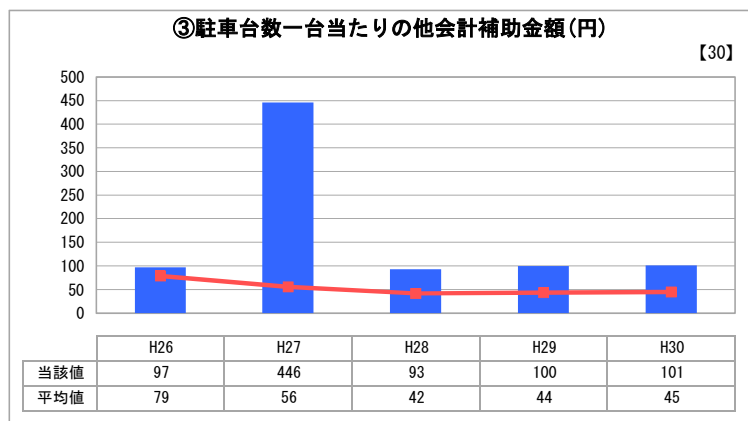
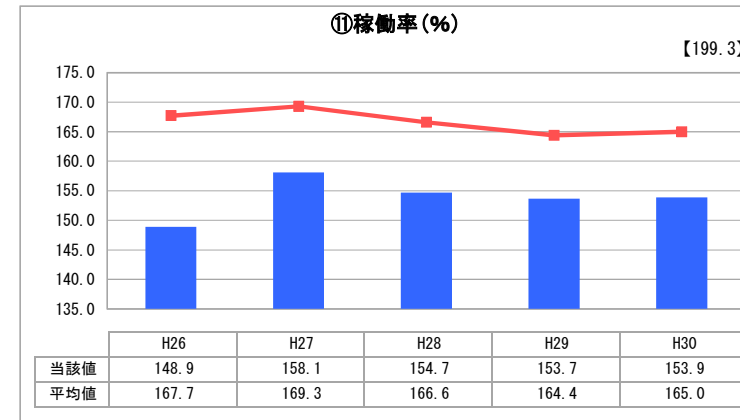
グラフ凡例

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、平成30年度は大規模修繕費の増加の影響で100%を下回り、赤字に転じている。④売上高GOP比率、⑤EBITDAは減少傾向であり、平成30年度は類似施設の平均を下回っている。②他会計補助金比率は、類似施設の平均より高い。

2. 資産等の状況について
 駐車場の規模が大きいこと、供用開始から50年以上経過することから、⑧設備投資見込額は高いが、設備投資見込額の建設費(約60億円)に対する割合では、市営の他の駐車場と比較して平均的である。また、⑩企業債残高対料金収入比率は、平成27年度より0となっており、引き続き必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ⑩稼働率について、経年比較では横ばいであり、類似施設の平均と比較して低い状態である。周辺施設への営業活動等、引き続き指定管理者と連携しながら利用台数の増加を目指していく。

2. 資産等の状況

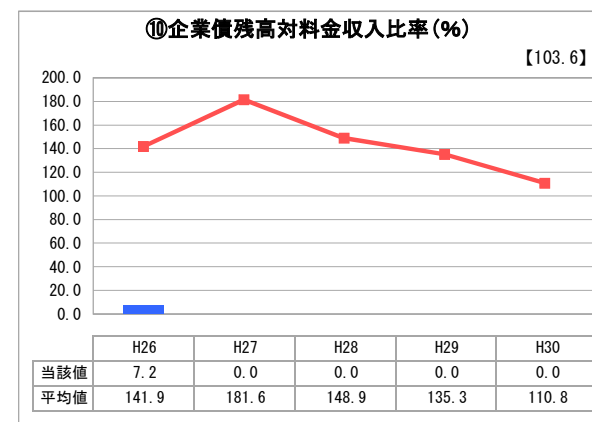


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

647,840



全体総括

都心部の駐車場であり、市営駐車場事業全体に与える影響は大きい。都心三宮再整備に伴う周辺土地利用環境の変化も踏まえ、新たな取り組みとしてカーシェアリング事業を開始するなど、引き続き、指定管理者と連携しながら、収益の増加及び安定化を目指していく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 花隈駐車場

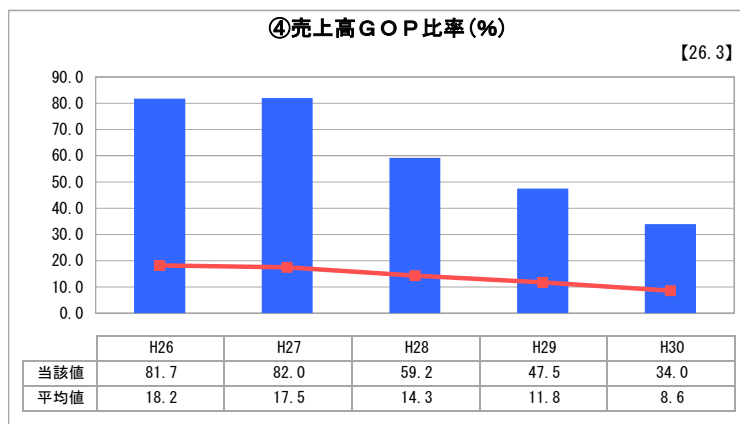
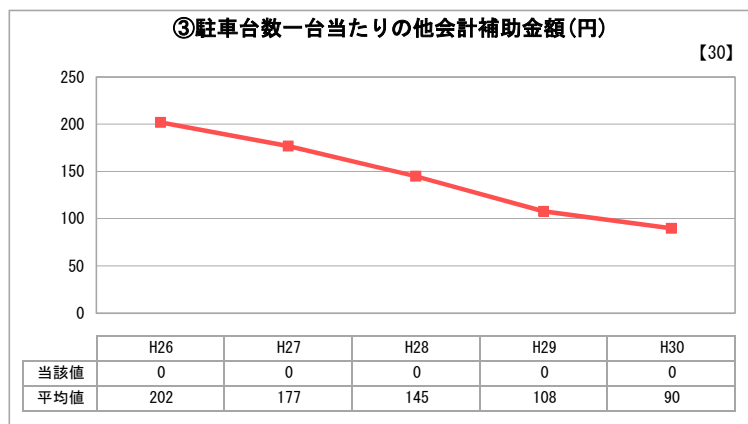
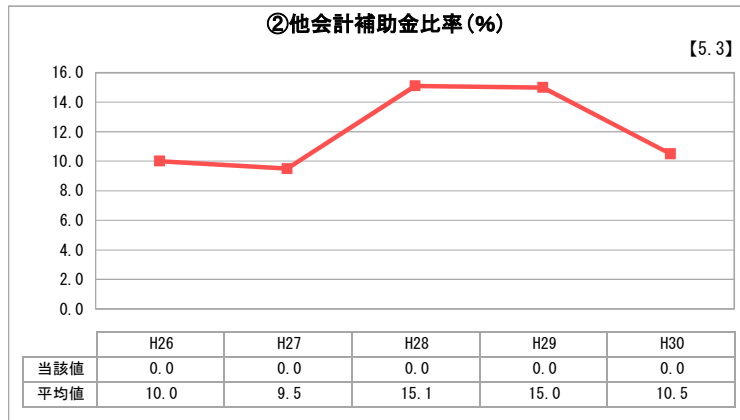
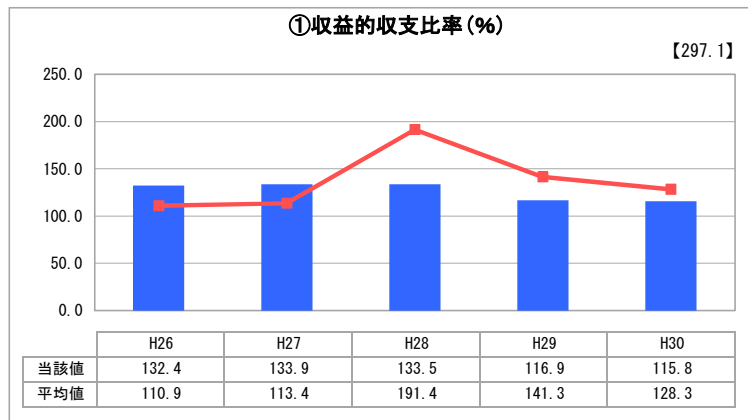
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	50	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(㎡)
駅	無	8,977
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
258	400	代行制

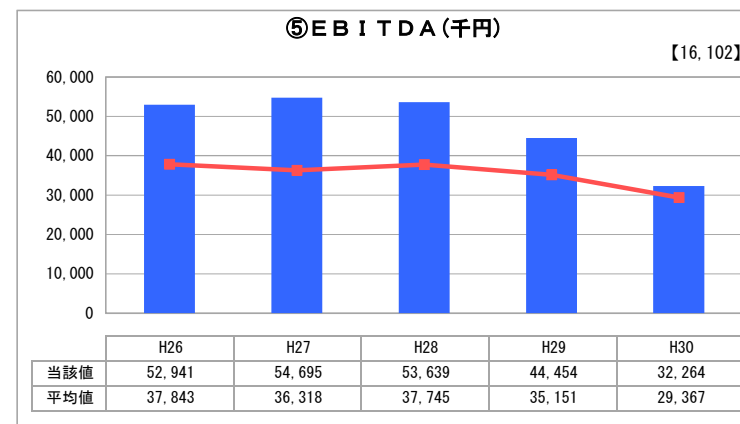
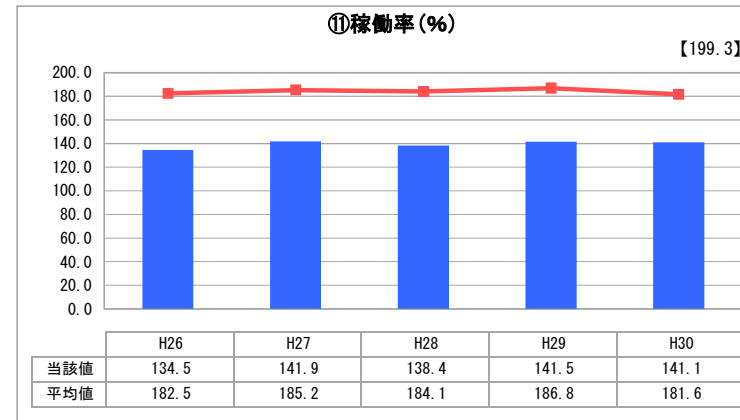
グラフ凡例

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

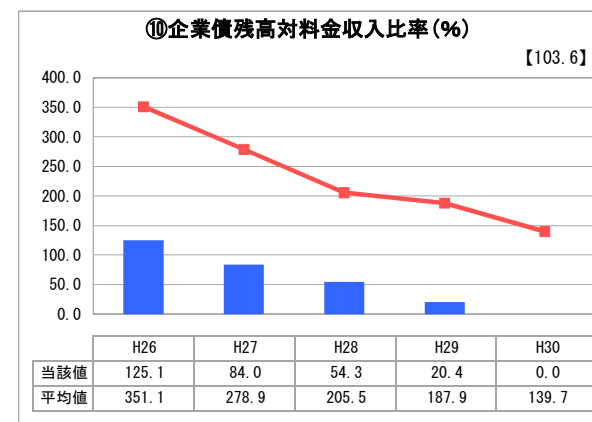


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

80,687



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、100%を超えており黒字であるが、類似施設の平均よりは低い。④売上高GOP比率は、経年比較において減少傾向にあるが、⑤EBITDAとともに類似施設の平均を上回っており、健全な経営状態といえる。市街地中心部に立地しており、安定的な使用料収入を確保できることが要因である。

2. 資産等の状況について
 供用開始から50年が経過するため、⑧設備投資見込額は高い。⑩企業債残高対料金収入比率は平成30年度で0となったため、今後は必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ⑩稼働率は類似施設の平均と比較して低い。理由としては、通勤目的の利用が高いなど1台当たりの駐車時間が長いことが考えられる。

全体総括
 稼働率は低いものの、黒字であることやキャッシュの利益が出ていることから、健全な経営状況だといえる。新たな取り組みとしてカーシェアリング事業を開始するなど、引き続き、指定管理者と連携しながら収益の増加及び安定化を目指していく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 湊川駐車場

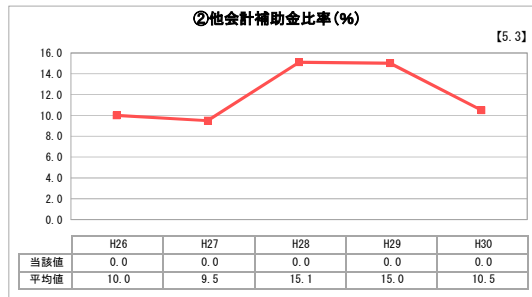
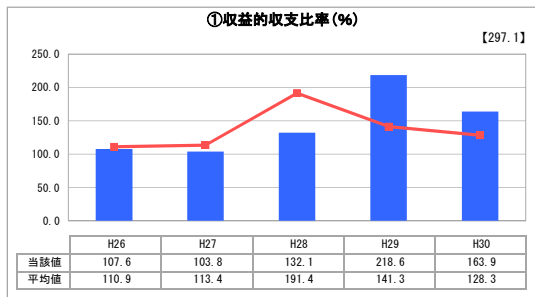
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	49	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	11,469
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
300	400	代行制

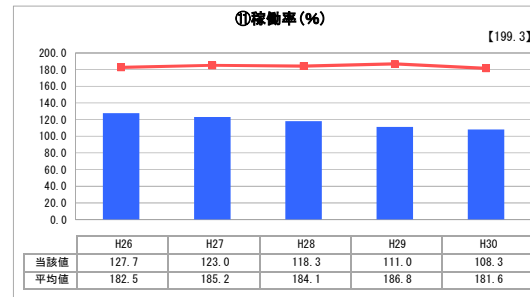
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、100%を上回る黒字であるとともに経年比較において増加傾向であり、直近2年間は類似施設の平均を上回っている。④売上高GOP比率及び⑤EBITDAは類似施設の平均を上回っており、健全な経営状態といえる。引き続き安定的な収入確保のため営業活動を強化する。

2. 資産等の状況について
 ⑩企業債残高対料金収入比率は平成28年度に0となっている。⑧設備投資見込額は低いが、今後も必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ①稼働率は類似施設平均を下回っており、経年比較においても減少している。付近の駐車需要を勘案しながら、利用率向上策を検討していく。

全体総括

経営状態は健全ではあるものの、周辺施設の経営状況など外的要因に依存する面がある。新たな取り組みとしてカーシェアリング事業の開始を開始するなど、引き続き、指定管理者と連携しながら収益の増加及び安定化を目指していく。

2. 資産等の状況

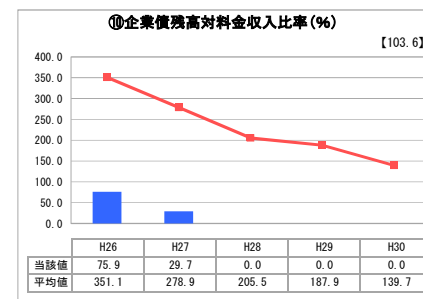


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

103,879



経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 三宮第2駐車場

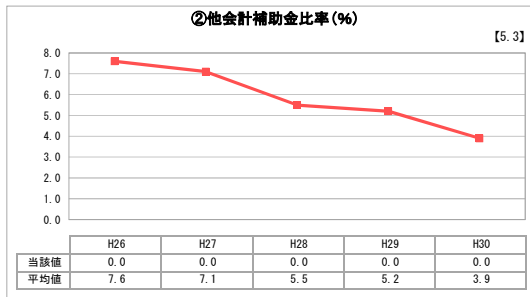
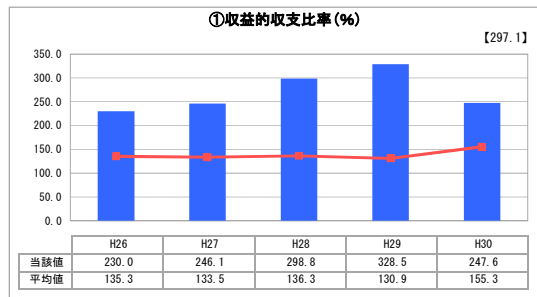
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	45	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	19,348
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
550	400	代行制

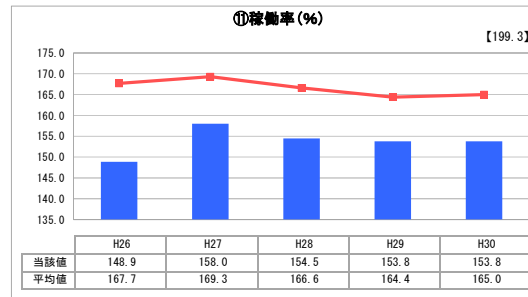
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況

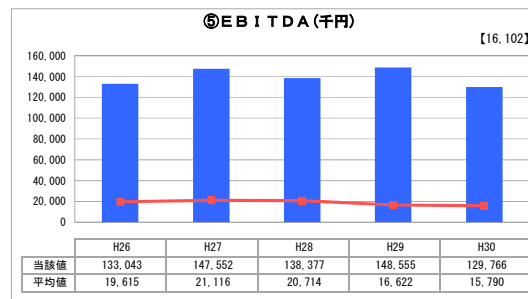
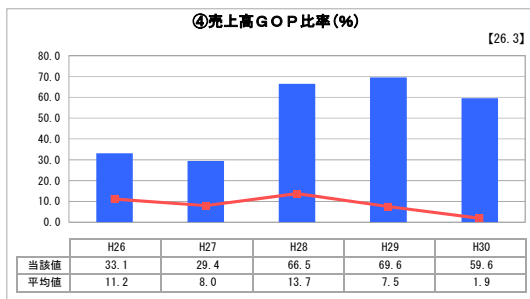
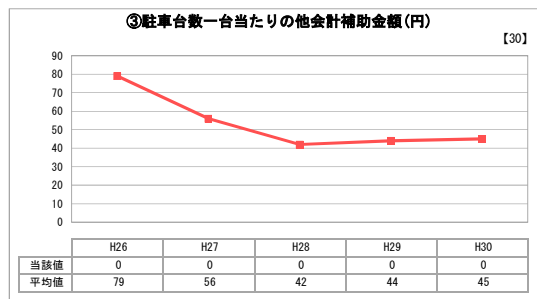


分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益の収支比率について、直近5年間は200%を超えており、また④売上高GOP比率や⑤EBITDAについても類似施設平均値を上回っていることから健全な経営状態といえる。市街地中心部に立地し、平日のビジネス利用や休日の買い物・観光等の需要が安定的に見込まれることが要因である。

2. 資産等の状況について
 ⑩企業債残高対料金収入比率は平成29年度より0となっている。⑧設備投資見込額は他の駐車場と比較して、平均的であるが、引き続き必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ⑩稼働率は、経年比較において横ばいであり、類似施設の平均と比較して低い。周辺施設の営業活動等、引き続き指定管理者と連携しながら利用台数の増加を図っていく。



2. 資産等の状況

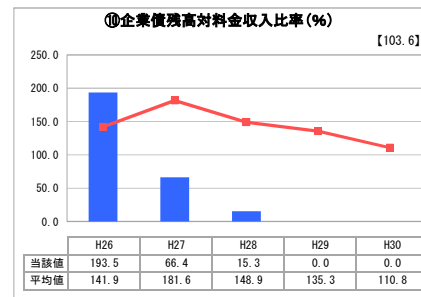


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

197,244



全体総括
 経営状況は安定しているため、都心三宮再整備に伴う周辺土地利用環境の変化も踏まえ、引き続き利用率の増加を目指していく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 新長田駐車場

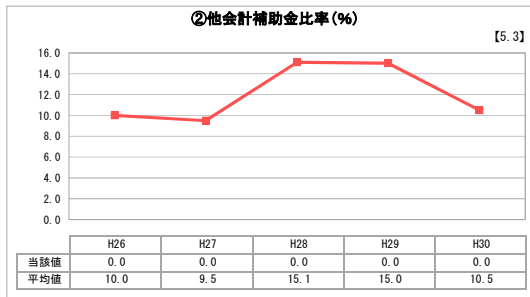
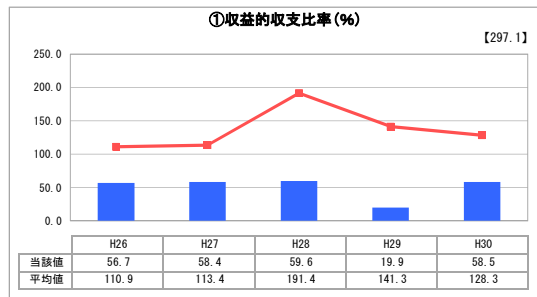
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	44	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	9,414
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
220	200	代行制

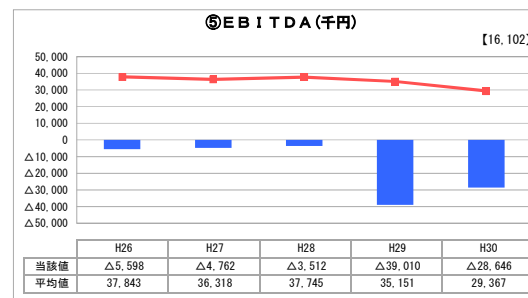
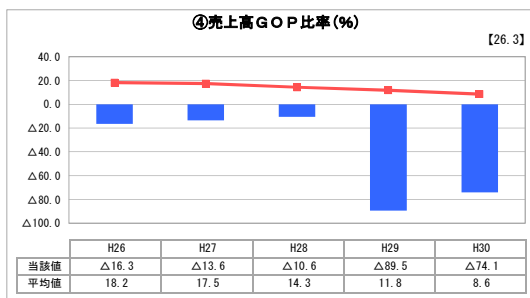
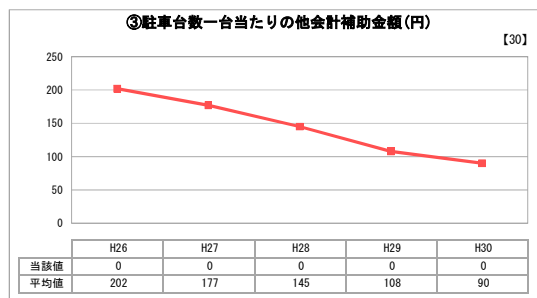
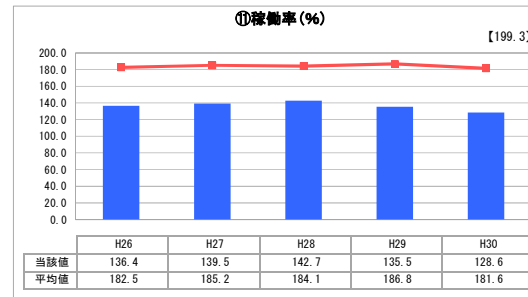
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

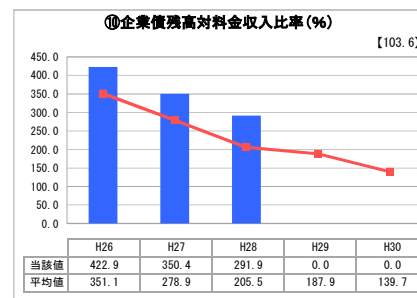


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

104,771



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、100%を下回る赤字であり、類似施設平均を下回っている。④売上高GOP比率及び⑤EBITDAは、減少傾向であり、類似施設の平均を下回っている。周辺商業施設利用者の変化や、近隣民間駐車場の価格差が原因であると考えられる。引き続き、経営状況の改善に努めていく。

2. 資産等の状況について
 ⑧設備投資見込み額は少ない。しかしながら、供用開始から40年以上経過する駐車場である。⑩企業価値高対料金収入比率は平成29年度より0となっており、必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ①稼働率について、類似施設平均を下回っている。供用開始時と比べ、近隣の民間駐車場が増えたことが原因と考えられる。

全体総括

経営状況を改善し、老朽化に対応する設備改修費用や土木修繕費用を賄う必要がある。新たな取り組みとしてカーシェアリング事業を開始するなど、引き続き、指定管理者と連携して、周辺施設への営業や利用者サービスの向上に取り組んでいきたい。

経営比較分析表（平成30年度決算）

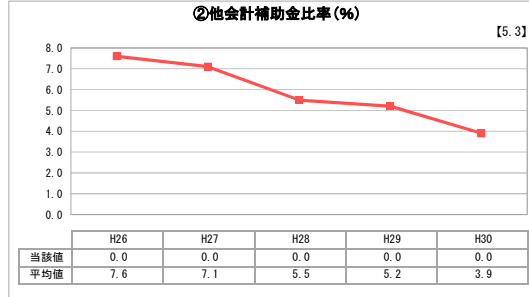
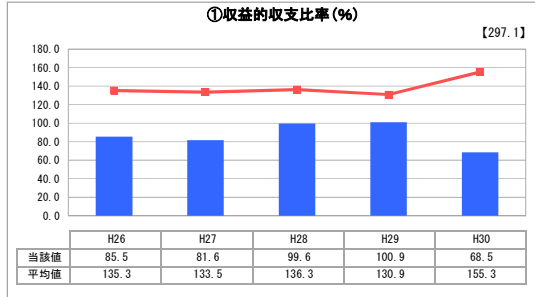
兵庫県神戸市 長田北町駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	25	

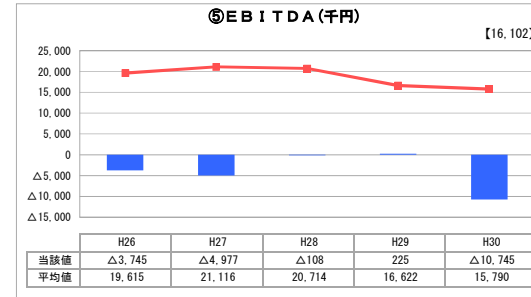
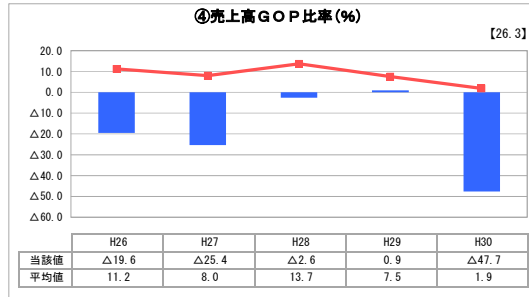
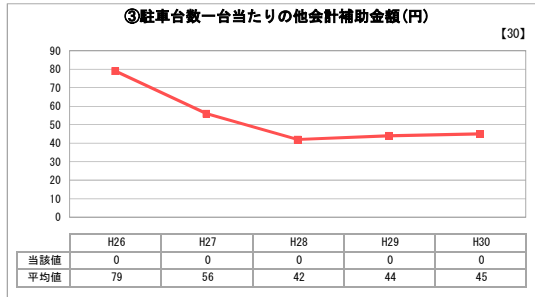
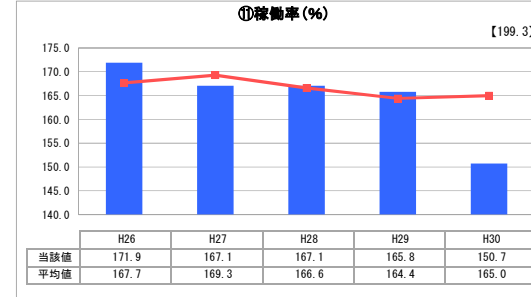
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	5,661
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
146	300	代行制

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
[]	平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

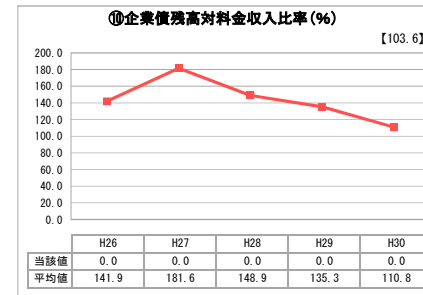


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

45,536



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、100%を下回る赤字であり、類似施設平均を下回っている。また、④売上高GOP比率や⑤EBITDAは類似施設平均を下回っている。併設の長田区役所以外に集客施設が少なく、大幅な需要増は厳しい。令和元年度からはカーシェアリング事業の開始を予定しており、使用料収入の増加を図るとともにコスト削減等で収益構造の改善に努めていく。

2. 資産等の状況について
 供用開始が平成5年と比較的新しく、⑧設備投資見込額は少ない。⑩企業債残高対料金収入比率は0であり、引き続き必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ①稼働率については、類似施設平均を下回っている。需要増は厳しい状況だが、稼働率の向上にも努めていく。

全体総括

長田区役所への来庁等、短時間利用車が多く、収益増への寄与度が低いことが考えられる。新たな取り組みとしてカーシェアリング事業を開始するなど、引き続き、指定管理者と連携して、収益構造の改善を図っていく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 鈴蘭台駐車場

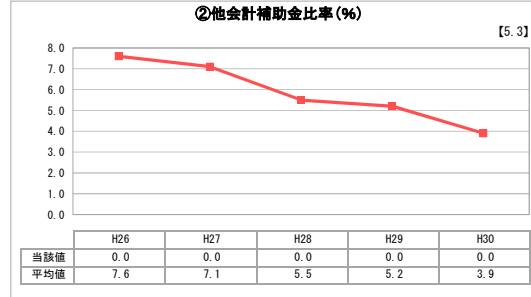
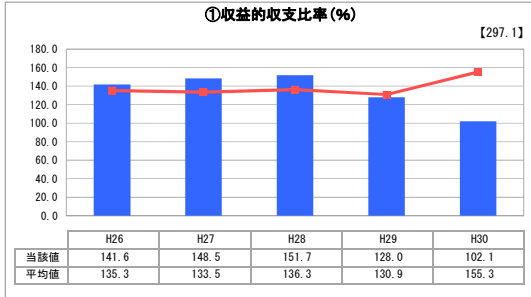
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	24	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	3,939
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
91	250	代行制

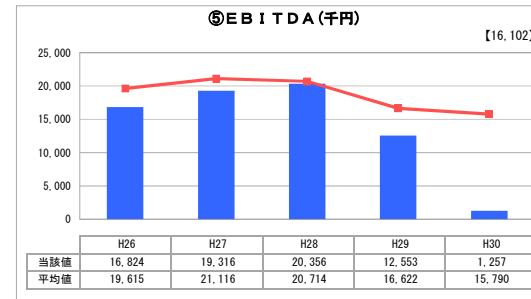
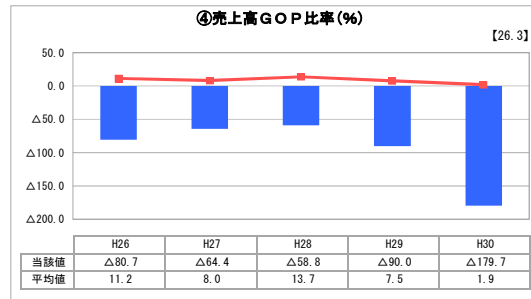
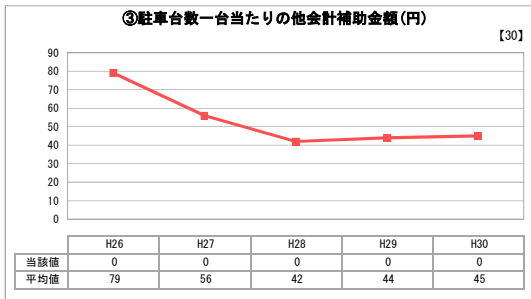
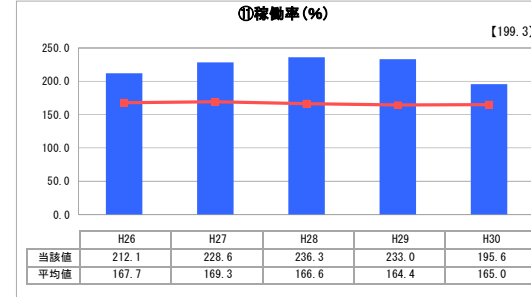
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

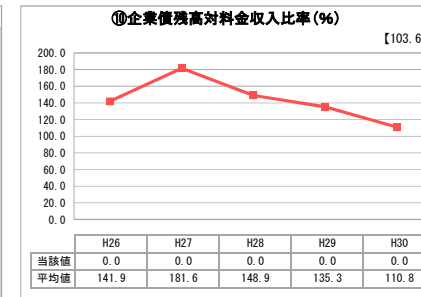


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

144,655



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率が100%を上回り黒字ではあるものの、経年比較において減少傾向にある。これは、近隣の北区役所が平成30年度中に移転したことによる需要減が影響していると思われる。④売上高GOP比率や⑤EBITDAは類似施設平均を下回っている。近隣の区民ホール以外に集客施設がないため大幅な需要増は厳しいが、令和元年度からは新たな取り組みとしてカーシェアリング事業の開始を予定している。

2. 資産等の状況について
 建設費(約10億円)と比較すると、⑧設備投資見込額は他の市営の駐車場と比べ多くなっている。⑩企業債残高対料金収入比率は0であり、引き続き必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ①稼働率は類似施設の平均と比較すると、高くなっている。これは、近隣の区民ホール利用者の駐車場利用が一定数存在するためと考えられる。

全体総括
 稼働率は依然として高い水準を維持しているものの、北区役所の移転による需要減に伴い、経営状況は悪化すると考えられる。新たな取り組みとしてカーシェアリング事業を開始するなど、引き続き、指定管理者と連携して、収益構造の改善に取り組んでいく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 細田駐車場

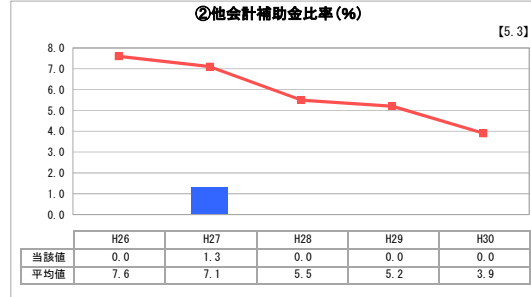
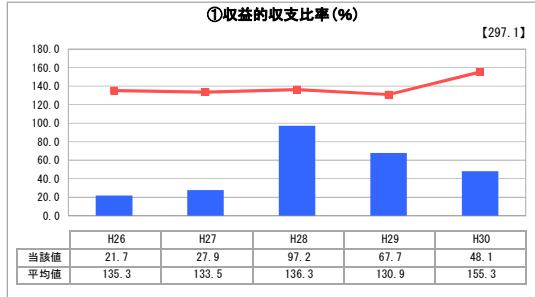
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 2	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	23	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
公共施設	無	4,444
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
93	200	代行制

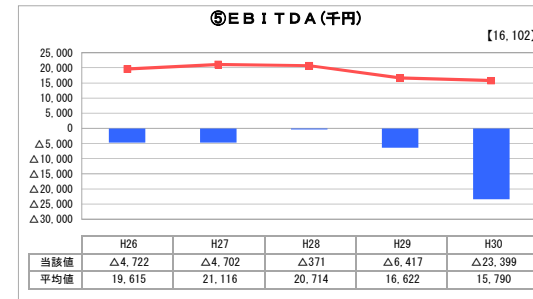
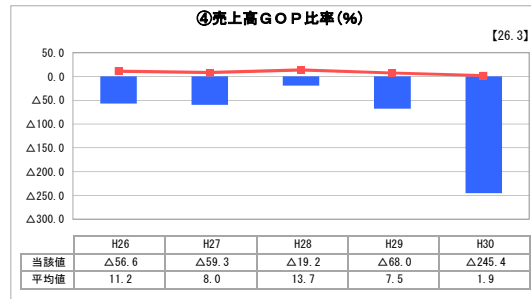
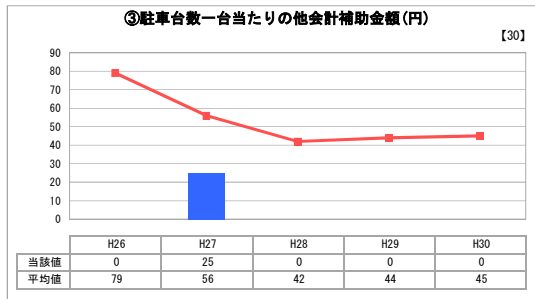
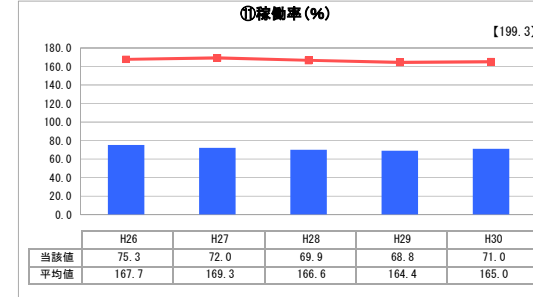
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

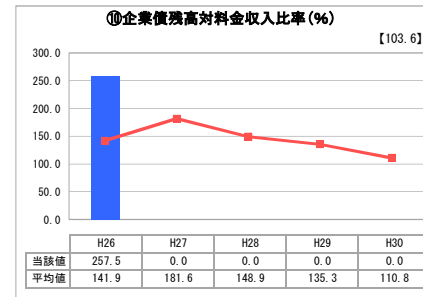


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

150,670



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益の収支比率について、100%を下回る赤字であり、類似施設平均を下回っているが、増加傾向にある。②、③の他会計補助金については、平成28年度より0となっている。④売上高GOP比率や⑤EBITDAは類似施設平均を下回っている。定期券の購入者数増加等による経営改善に向けた動きはあるものの、合築されている図書館等の他、近隣の集客施設が少なく、大幅な需要増は厳しいため、コスト削減等で収益構造の改善に努めていく。

2. 資産等の状況について
 供用開始が平成7年と比較的新しく、⑧設備投資見込額は少ない。⑩企業債残高対料金比率については、平成27年より0となっている。

3. 利用の状況について
 ①稼働率について、類似施設平均を下回っている。これは、近隣の県立文化体育館が駐車場を増設したことによる影響が続いているためと考えられるが、一方で、合築されている図書館等の利用車の需要も一定数存在すると考えられる。

全体総括

経営状態は改善傾向にあるため、引き続き指定管理者と連携して周辺施設利用者の駐車需要を取り込むことや、コスト削減対策に取り組むことで、収益構造の改善に努めていく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 新長田駅前駐車場

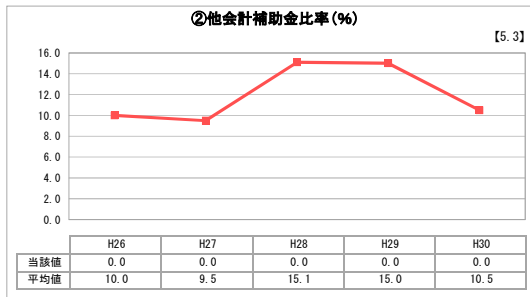
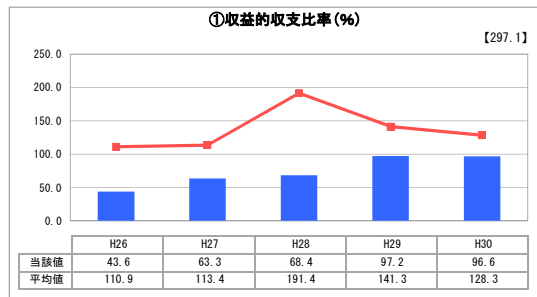
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	22	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	8,450
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
169	300	代行制

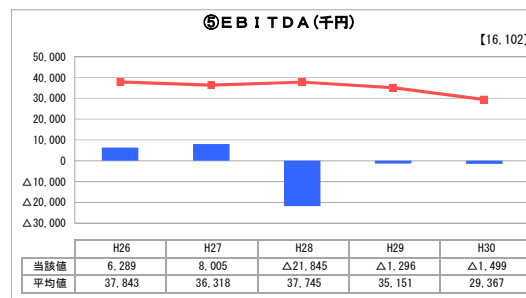
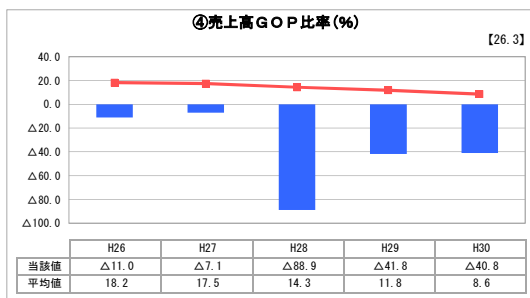
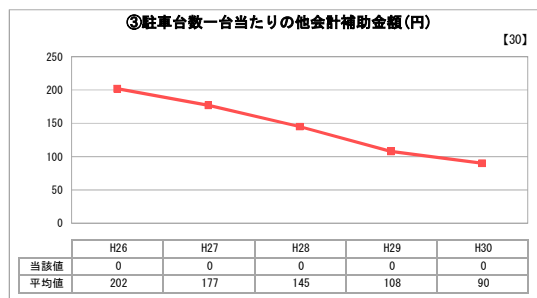
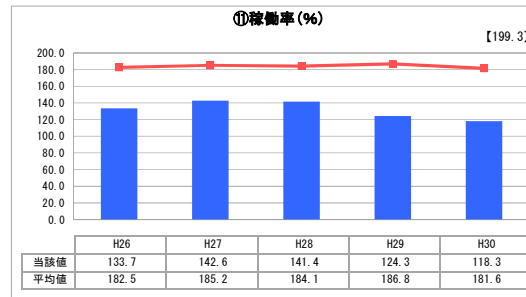
グラフ凡例

- 当該施設値(当該値)
- 類似施設平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

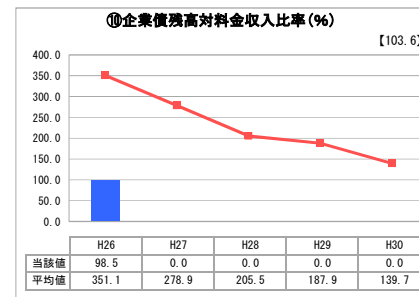


⑧敷地の地価(千円)

0

⑨設備投資見込額(千円)

251,759



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、類似施設平均を下回っており赤字であるが、増加傾向である。④売上高GOP比率、⑤EBITDAについても類似施設平均より下回っている。周辺商業施設の利用者の変化や、近隣民間駐車場の価格差が要因であると考えられる。引き続き、経営状況の改善に努めている。

2. 資産等の状況について
 供用開始が平成8年と新しく、建設費(約37億円)と比較して⑧設備投資見込額は少ない。⑩企業債残高対料金収入比率は、平成27年より0となっている。

3. 利用の状況について
 稼働率は、類似施設平均を下回っており、経年比較において減少傾向にある。理由として、供用開始時と比べ、近隣の民間駐車場が増加したことに伴う需要減少が考えられる。

全体総括

JR新長田駅及び市営地下鉄新長田駅と隣接しており、パークアンドライドの機能も備わっているものの、稼働率等が類似施設を下回っている。新たな取り組みとして、カーシェアリング事業を開始するなど、引き続き指定管理者と連携して、経営状況の改善に努めている。

経営比較分析表（平成30年度決算）

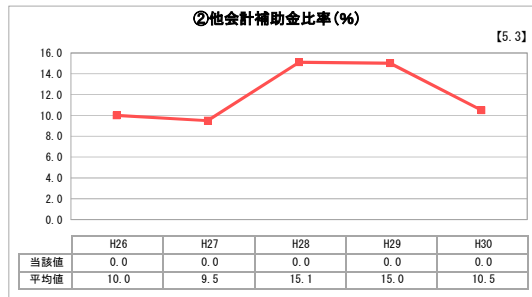
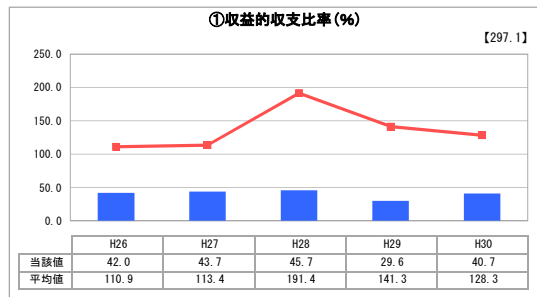
兵庫県神戸市 和田岬駐車場

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A 2 B 1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	地下式	17	

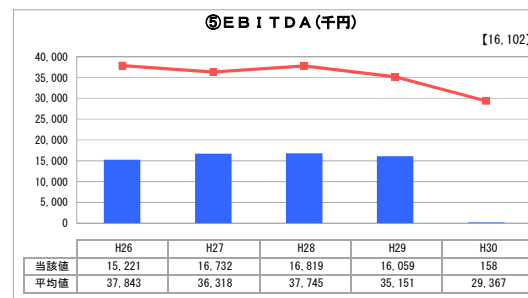
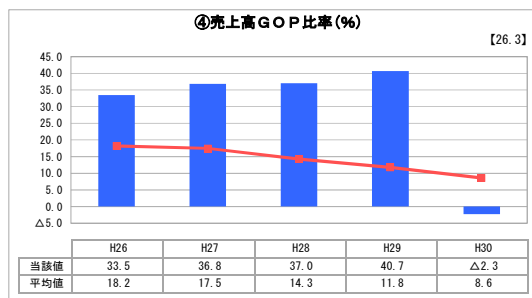
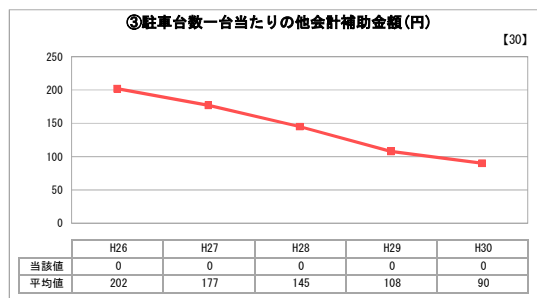
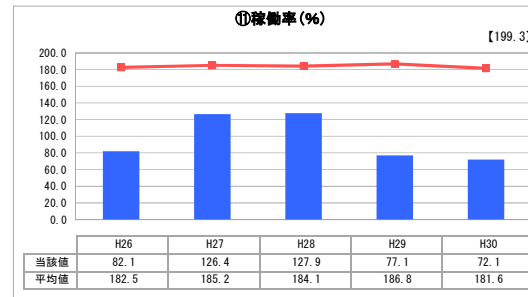
立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	7,222
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
140	300	代行制

グラフ凡例	
■	当該施設値(当該値)
—	類似施設平均値(平均値)
[]	平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



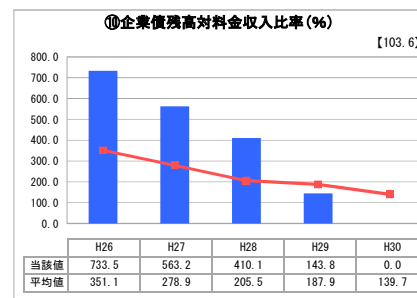
3. 利用の状況



2. 資産等の状況



⑦敷地の地価(千円)	0
⑧設備投資見込額(千円)	346,511



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益の収支比率について、100%を下回る赤字であり、類似施設平均を下回っている。また、④売上高GOP比率、⑤EBITDAについても類似施設の平均を下回っている。コスト削減等により収益構造の改善に努めていきたい。

2. 資産等の状況について
 ⑧設備投資見込額は多い。⑩企業価値高対料金収入比率は、平成30年度で0となったため、今後は必要設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ①稼働率は類似施設平均を下回っている。これは、通勤目的の長時間利用車両が多いためと考えられる。

全体総括
 近隣の企業への訪問者にかかる売上が好調であるものの、黒字へ転換させるためにも、指定管理者と連携の上、周辺商業施設に対する営業活動強化やコスト削減により、引き続き経営状況の改善に努めていく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県神戸市 舞子駅前駐車場

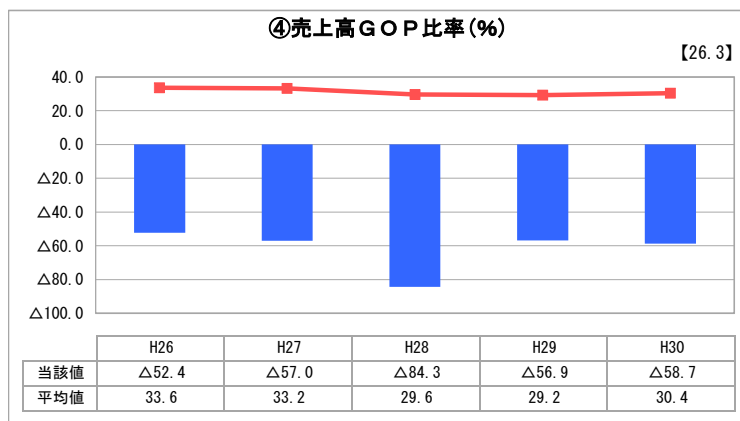
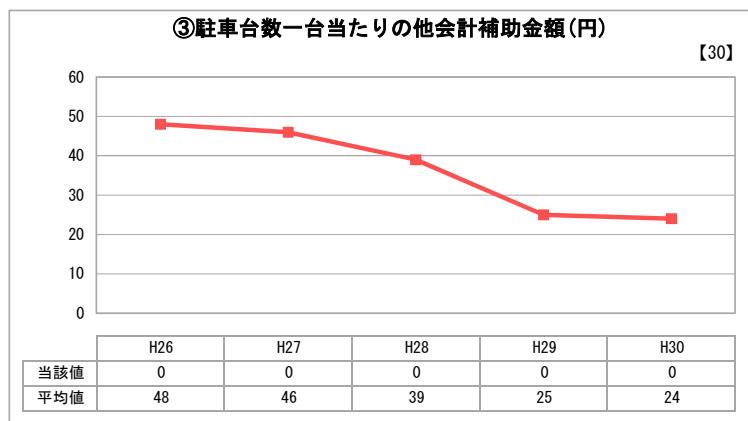
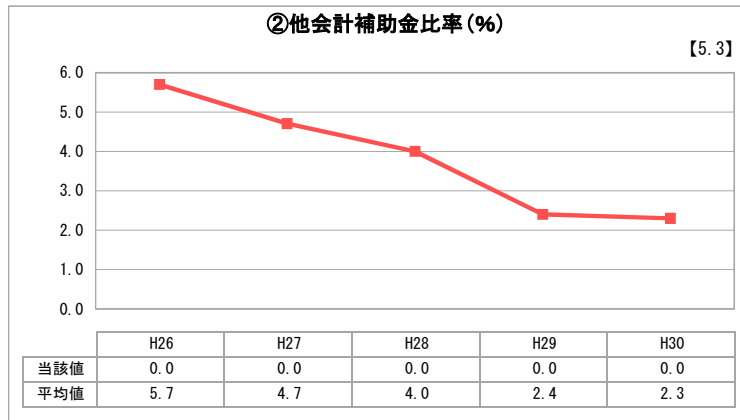
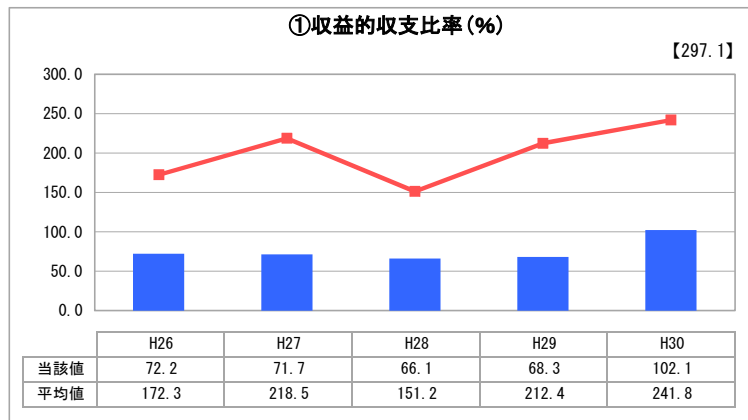
業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法非適用	駐車場整備事業	-	A1B1	非設置
自己資本構成比率(%)	種類	構造	建設後の経過年数(年)	
該当数値なし	都市計画駐車場	立体式	20	

立地	周辺駐車場の需給実態調査	駐車場使用面積(m ²)
駅	無	8,843
収容台数(台)	一時間当たりの基本料金(円)	指定管理者制度の導入
167	300	代行制

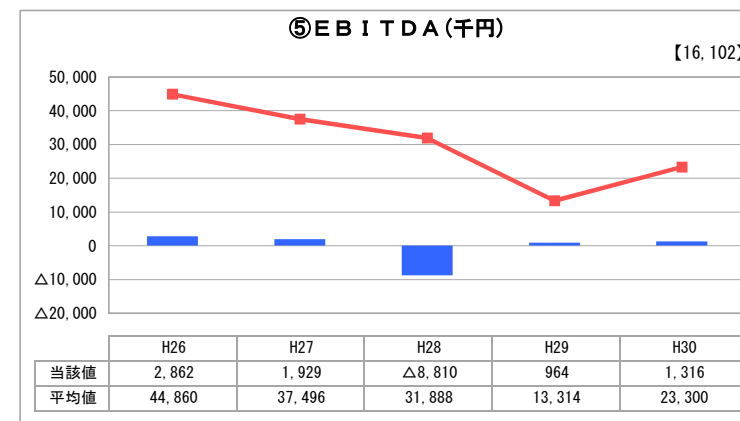
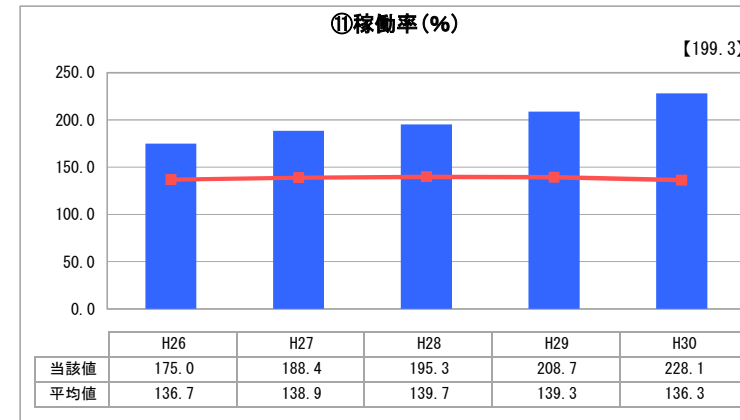
グラフ凡例

- 当該施設値（当該値）
- 類似施設平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 収益等の状況



3. 利用の状況



2. 資産等の状況

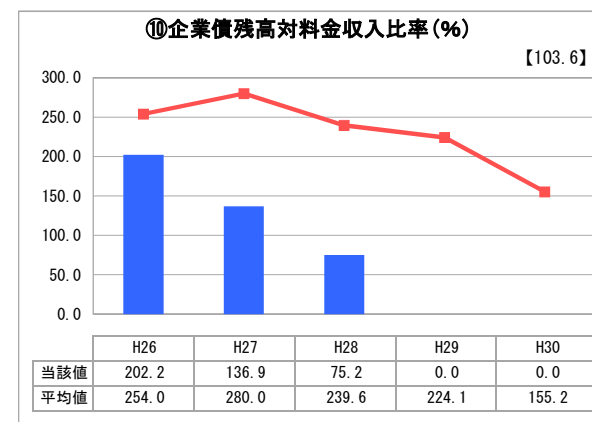


⑦敷地の地価(千円)

0

⑧設備投資見込額(千円)

440,696



分析欄

1. 収益等の状況について
 ①収益的収支比率について、平成30年度は類似施設の平均を下回ってはいるものの、100%を超え黒字に転じた。また、④売上高GOP比率、⑤EBITDAについて、類似施設の平均を下回っている。コスト削減等により更なる収益構造の改善に努めていきたい。

2. 資産等の状況について
 ⑧設備投資見込額は高い。⑩企業債残高対料金収入比率は、平成29年度から0となっている。引き続き必要な設備更新に対する投資を計画的に行っていく。

3. 利用の状況について
 ⑩稼働率は類似施設平均を上回っており、増加傾向にある。隣接商業施設への買い物目的での利用が多く、比較的短時間での利用が多いためと考えられる。一方、通勤目的の定期量も多く、収益構造悪化の要因になっていると考えられる。

全体総括
 稼働率は高く、平成30年度に黒字へ転じている。引き続き指定管理者と連携の上、周辺商業施設に対する営業活動強化やコスト削減等により、経営状況の改善に努めていく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 神戸市

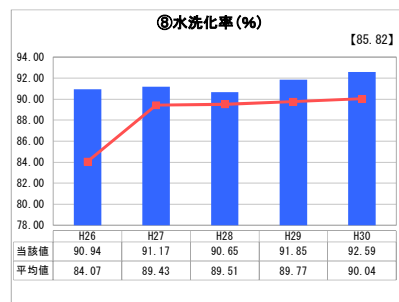
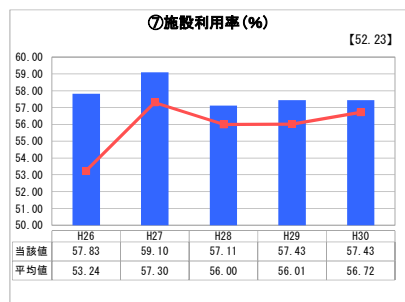
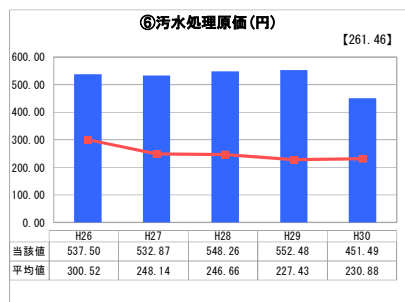
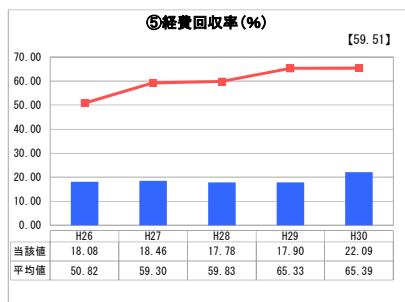
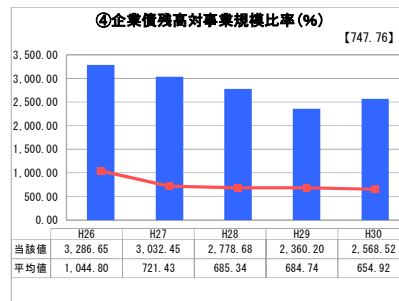
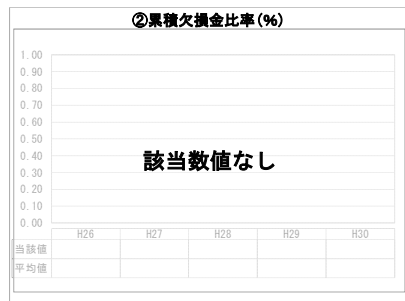
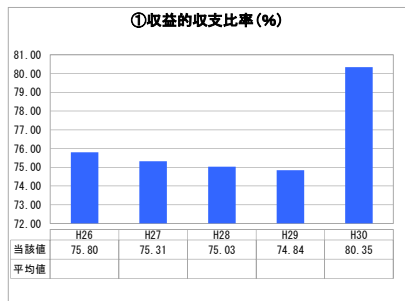
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.86	86.54	1,566

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,538,025	557.02	2,761.17
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
13,137	4.57	2,874.62

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
収益的収支比率が100%を割っているのは、平成5年から平成9年にかけて設備を集中整備した際の地方債が償還期限を迎えていることが大きな影響を与えている。平成20年度で施設の整備は終了しているため、平成29年度には、地方債の償還のピークを迎え、収益的収支比率は平成30年度は改善してきている。

④企業債残高対事業規模比較
神戸市の農業集落排水処理施設は、地形的要因として起伏が多いため、汚水を処理場に送るための中継ポンプ場が多く必要である。また、処理水は最終的に瀬戸内海に放流されるため、水質基準が通常よりも厳しい。このため神戸市の処理場の設計排水基準も厳しく、高額な初期費用が必要となり、企業債残高対事業規模比較が高くなっている。

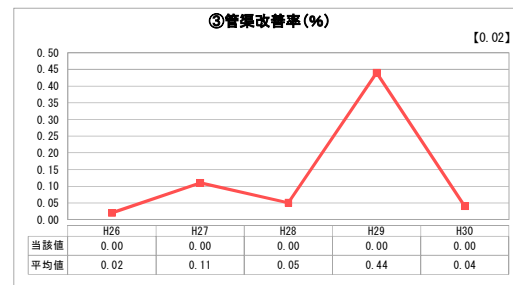
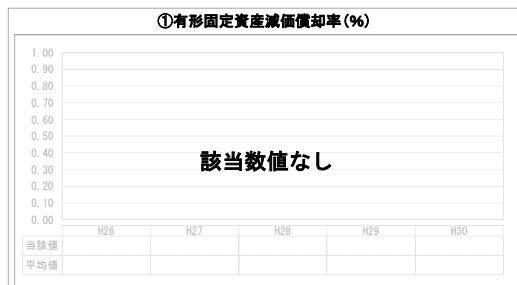
⑤経費回収率
神戸市では「市内同一サービス・同一料金」を原則としており、農業集落排水の使用料は、公共下水道の使用料と同額としている。しかし、農業集落排水は公共下水道に比べて、規模も格段に小さく非効率であり、施設の維持管理に必要な使用料収入を得られていない。このため、経費回収率は低くならざるを得ず、不足分は一般会計からの繰入金で充てている。

⑥汚水処理原価
中継ポンプ場のメンテナンスや、水質の確保のための処理場運転に電力費などがかかると、汚水処理原価が類似団体平均より高くなっている。

2. 老朽化の状況について

管渠の多くは、整備から30年未満で耐用年数を迎えておらず、大きな不具合も出ていないため、管渠の更新はしていない。今後は処理場を含めたライフサイクルコストを低減するため最速整備構想をまとめ、適切な機能保全対策を講じていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

神戸市の農業集落排水は、地形的要因に加え、下水道料金を市内同一サービス・同一料金としているため、経常的な費用を収益でまかなうことができていない。農業集落排水事業は一般会計からの繰入金に依存しているため、収益の確保の取り組みが重要である。具体的には、(1)使用料滞納者に対する対策、(2)水洗化の促進を行っていく。また、今後多くの設備が整備後30年を迎え、機器の更新等が必要になってくるので、計画的に修繕を行い、機能維持を図ると共に、処理区の統合についても検討していきたい。

農業集落排水事業は、農村環境改善、農業排水・公共用水の水質改善に必要な不可欠な施設であるため、経営戦略の策定を含め、引き続き適正な維持管理に努めてまいりたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県地方独立行政法人神戸市民病院機構 中央市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	500床以上	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	34	対象	透I未訓方	救臨が被災地
人口(人)	建物面積(m ²)	不採算地区病院	看護配置	
-	101,981	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

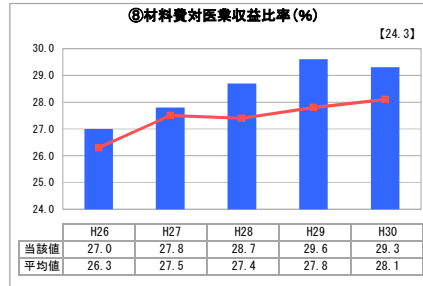
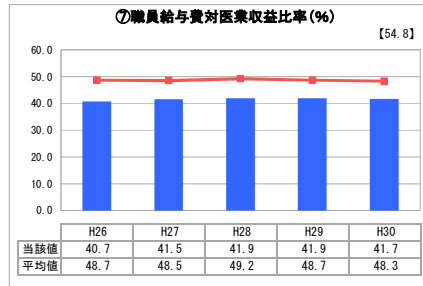
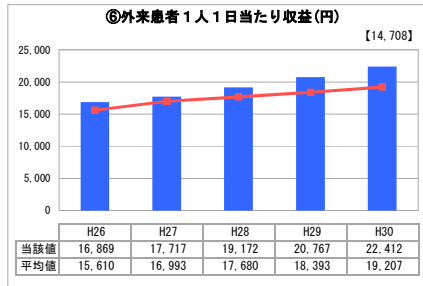
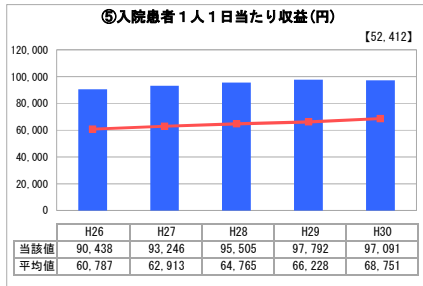
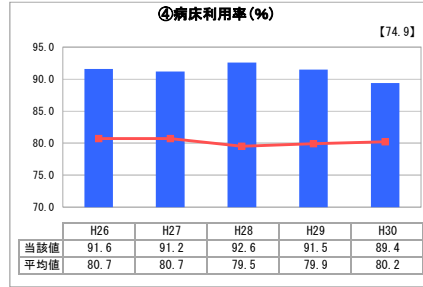
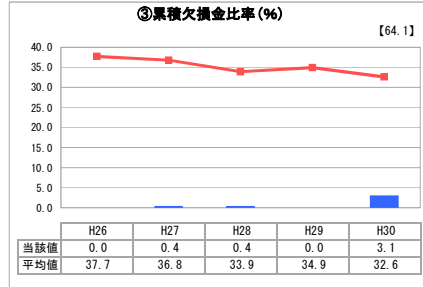
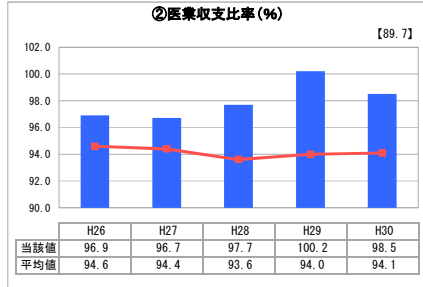
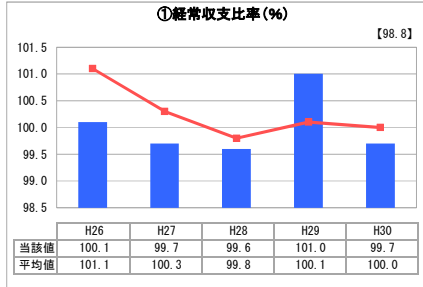
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
750	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
8	10	768
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
750	-	750

グラフ凡例

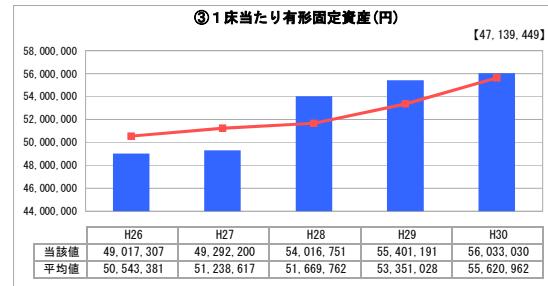
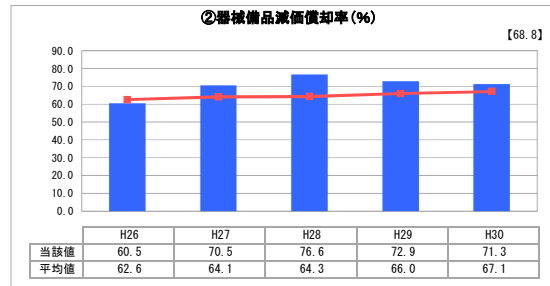
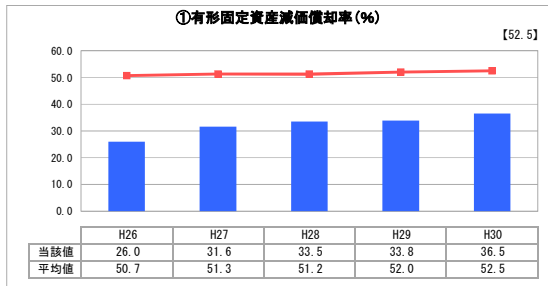
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成25年度	平成21年度	-年度

I 地域において担っている役割

神戸市全域の基幹病院・救命救急センターとして、24時間365日の救急医療を提供するとともに、高度医療・急性期医療を重点的に担い、最後の砦として市民の生命と健康を守る役割を担っている。

*平成29年11月に先端医療センター病院を統合し、60床増床している。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度決算においては、病床利用率の低下に伴い収益が伸び悩んだことに加え、医療情報システムの更新により減価償却費が増加したことなどから収支が悪化し、経常収支比率、医療収支比率は100%を下回った。

患者1人1日当たり収益は、神戸市全域の基幹病院として高度・先進医療を提供していることから、入院・外来ともに平均値を大きく上回っており、良好に推移している。一方、これに伴い材料費対医療収益比率も平均値を上回り、上昇傾向にある。

経常収支比率を100%にするためには、病床利用率、材料費対医療収益比率等の指標について、改善を図っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、平成23年度に病院建物を新築・移転し、平成28年度に北館・研修棟を増築、平成29年度には先端医療センター病院の統合により、建物を取得したところであり、平均値を下回っている。

器械備品減価償却率については、平成30年10月に医療情報システムを更新したことにより、前年度から値下したが、平均値を上回っている。

全体総括

1. に記載の通り、経常収支比率を100%にするためには、病床利用率、材料費対医療収益比率等の改善を図っていく必要がある。そのため、病床利用率の改善や、診療機能の強化等による医療収益の増加に加え、4病院のスケールメリットを活かした費用の削減等に取り組んでいるところであり、そのため、今後もより一層の経営改善を図っていく。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県地方独立行政法人神戸市民病院機構 西市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	26	対象	透I訓	救臨地輪
人口(人)	建物面積(mf)	不採算地区病院	看護配置	
-	28,813	非該当	7:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン(放射線)診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

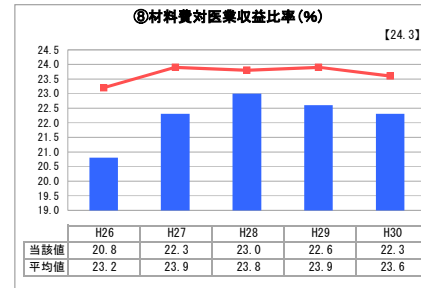
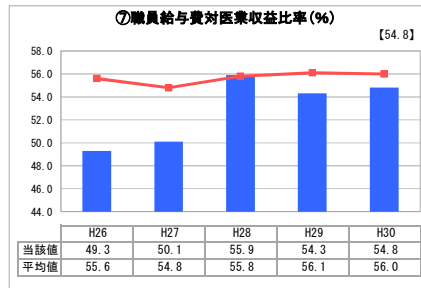
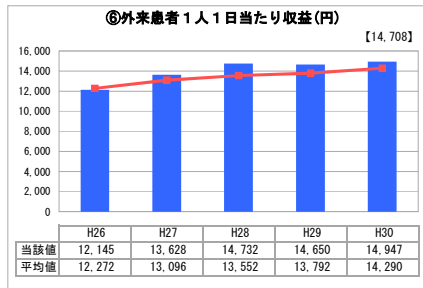
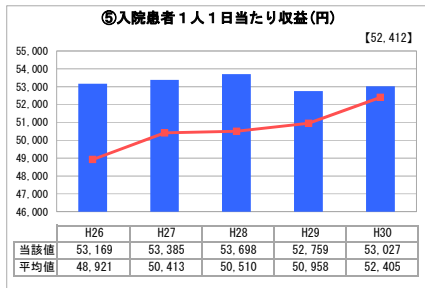
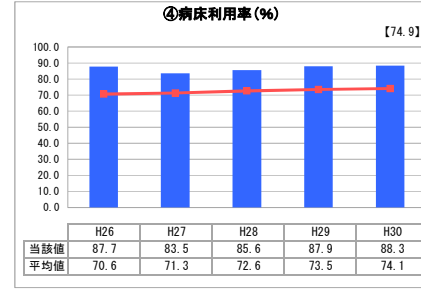
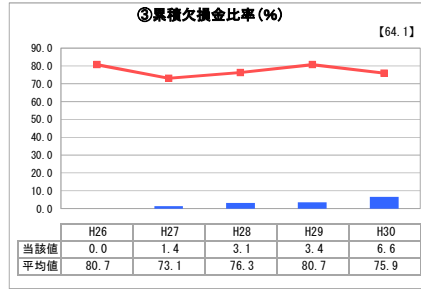
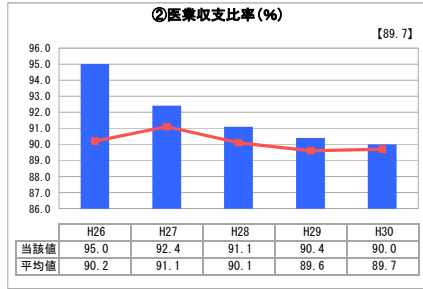
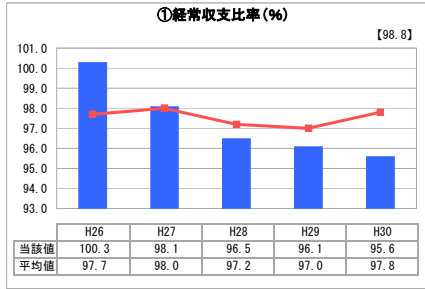
許可病床(一般)	許可病床(療養)	許可病床(結核)
358	-	-
許可病床(精神)	許可病床(感染症)	許可病床(合計)
-	-	358
稼働病床(一般)	稼働病床(療養)	稼働病床(一般+療養)
358	-	358

グラフ凡例

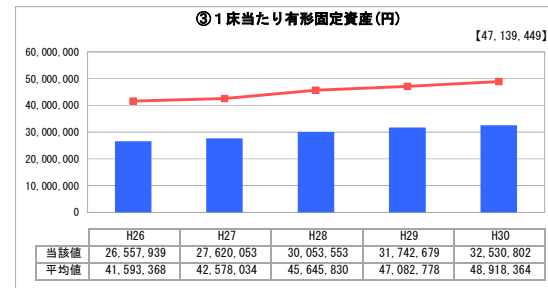
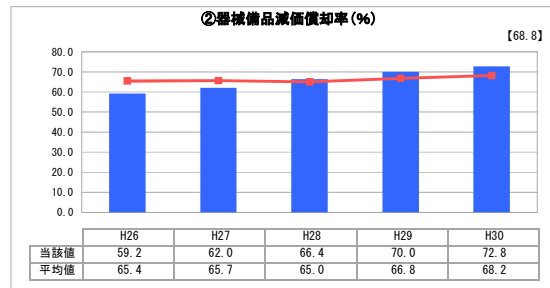
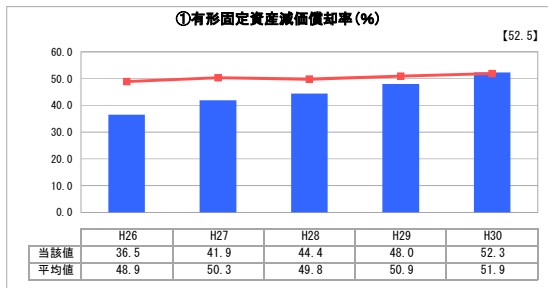
- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組(直近の実施時期)

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成25年度	平成21年度	-年度

I 地域において担っている役割

市街地西部の中核病院として、救急医療・急性期医療を担い、24時間365日市民の生命と健康を守る役割を担っている。また、在宅医療支援を含めた地域社会との連携を図り、地域医療支援病院としての役割も担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度決算においては、診療機能の強化等により病床利用率、患者1人1日当たり収益が改善したものの、一部診療科において医師の異動の影響により患者数が減少するなど収益が伸び悩み、経常収支比率、医療収支比率は前年度を下回った。

患者1人1日当たり収益は入院・外来ともに平均値を上回っているものの、入院の伸び率が平均値を下回っており、経常収支比率、医療収支比率の改善に向けては、病床利用率とあわせて、さらなる向上を図っていく必要がある。

また、職員給与費対医療収益比率、材料費対医療収益比率は、いずれも平均値を下回る数値で推移している。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、平均値を上回っている。病院建物は本館は築後21年、北館は築後29年が経過していることから、維持管理に努めており、今後も建物改修、設備更新を計画的に行っていくこととしている。

器械備品減価償却率は、平成25年、26年に導入した電子カルテシステムや手術支援ロボット「davyinci」等の減価償却が進んだことにより、平均値を上回っている。

全体総括

1. に記載の通り、経常収支比率の改善に向けて、病床利用率、入院患者1人1日あたりの収益等の向上を図っていく必要がある。そのため、診療機能の強化、地域医療機関との積極的な連携に取り組んでいるところであり、4病院のスケールメリットを活かした費用の削減等とあわせて、今後もより一層の経営改善を図っていく。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県地方独立行政法人神戸市民病院機構 西神戸医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	28	対象	透I 剖方	救臨が感災地輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	41,848	非該当	7：1	

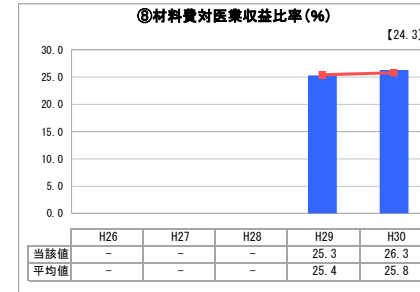
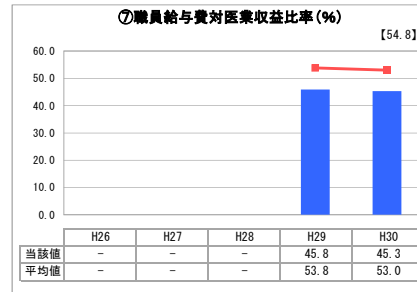
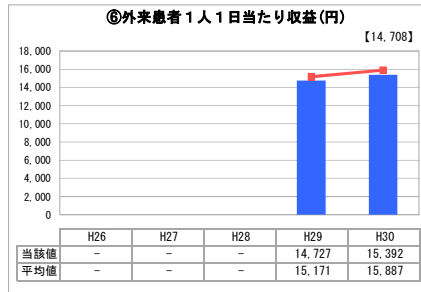
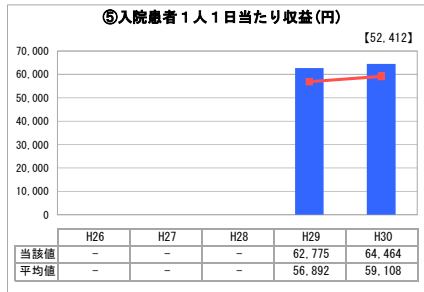
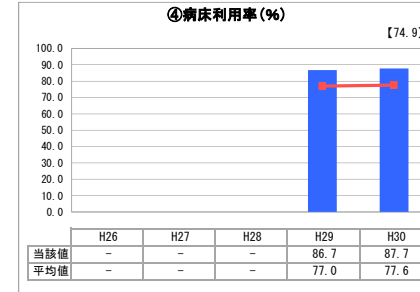
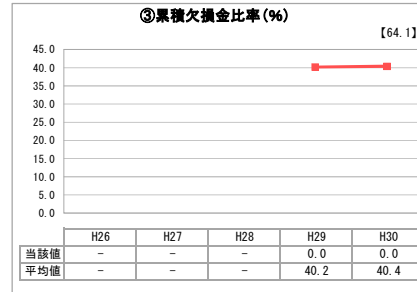
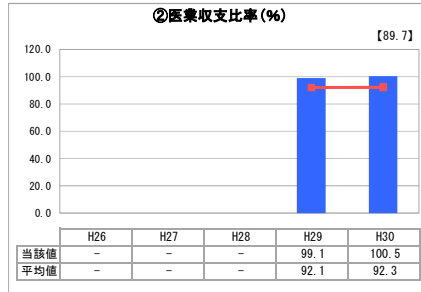
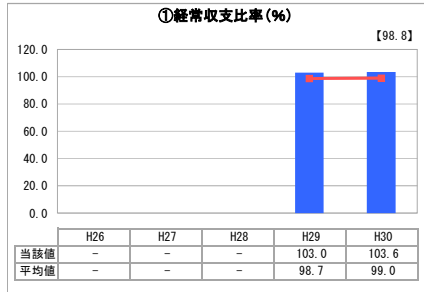
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

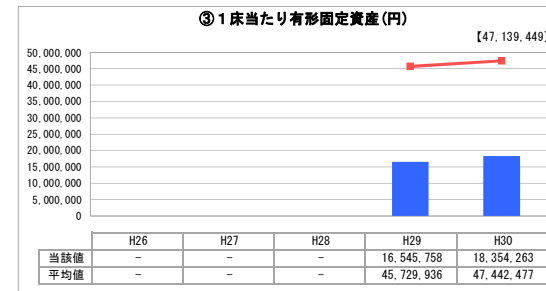
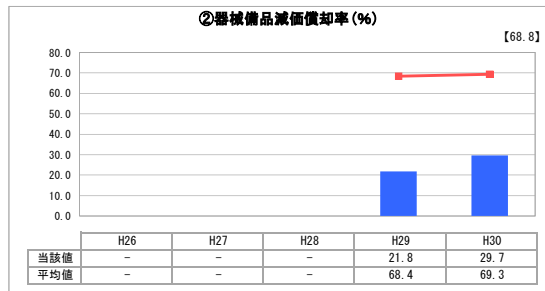
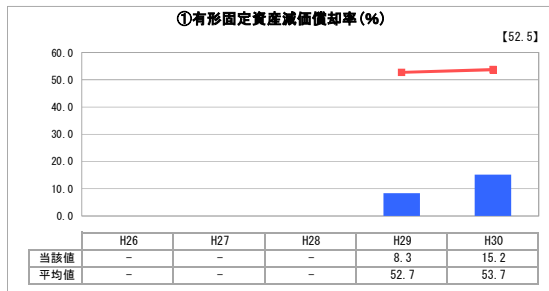
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
425	-	50
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	475
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
425	-	425

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	平成29 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

神戸西地域における中核病院として、高度医療・救急医療・結核医療等を安定的に提供するとともに、地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携及び支援に取り組んでいる。また、地域がん連携拠点病院としての役割を担っている。
*平成29年4月に旧神戸市地域医療財団から移管。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度決算においては、診療機能の強化等により、病床利用率、患者 1 人 1 日 当たり 収益が前年度を上回ったことにより収支が改善し、経常収支比率、医療収支比率いずれも100%を上回った。

患者 1 人 1 日 当たり 収益は、入院は平均値を上回り良好に推移している一方、外来は平均値を下回っており、安定した経営を維持していくためには、さらなる向上を図っていく必要がある。

また、職員給与費対医療収益比率は平均値を下回る数値で推移しているが、材料費対医療収益比率は手術件数や腫瘍用薬の使用量の増加により向上している。

2. 老朽化の状況について

平成29年4月の移管に伴い、土地・建物、医療機器等を譲受けたところであり、有形固定資産減価償却率、器械備品減価償却率ともに平均値を大きく下回っている。一方で病院建物は築後24年を経過していることから、維持管理に努めており、今後も建物改修、設備更新を計画的に行っていくこととしている。

全体総括

平成30年度は黒字決算となったが、1. に記載の通り、黒字を維持していくためには、患者 1 人 1 日 当たり 収益等のさらなる向上を図っていく必要がある。そのため、診療機能の強化、地域医療機関との連携を図るとともに、4 病院のスケールメリット活かした費用の削減に取り組み、材料費対医療収益比率の改善を図っているところであり、今後もより一層の経営改善を図っていく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県地方独立行政法人神戸市民病院長 施設 施設

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	50床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	1	対象	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	4,563	非該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

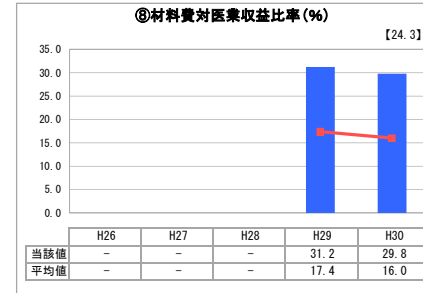
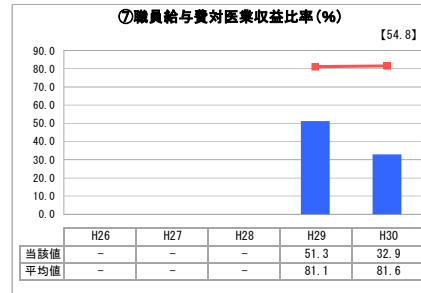
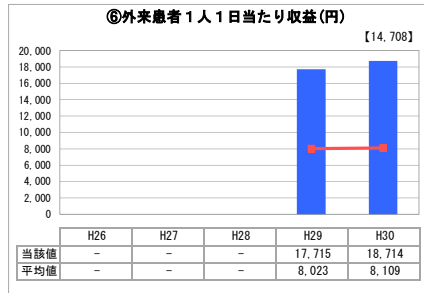
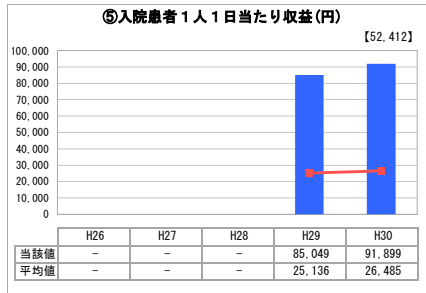
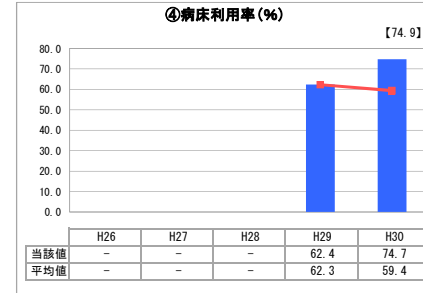
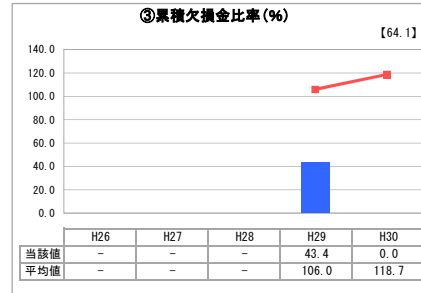
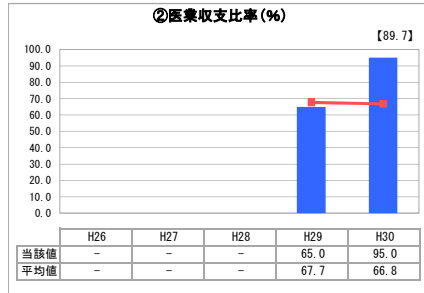
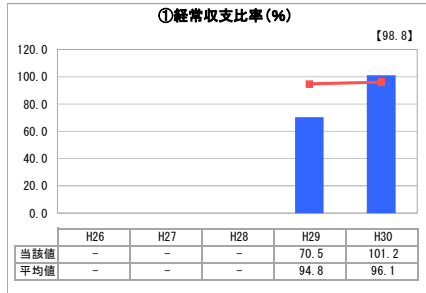
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
30	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	30
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
30	-	30

グラフ凡例

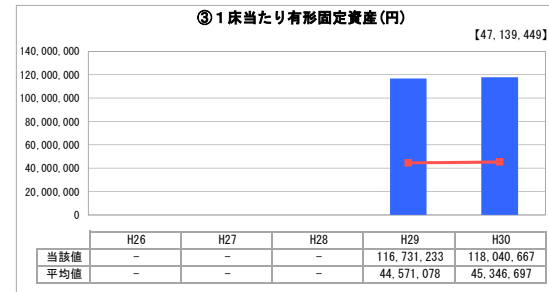
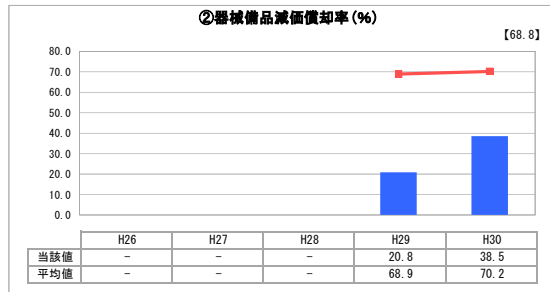
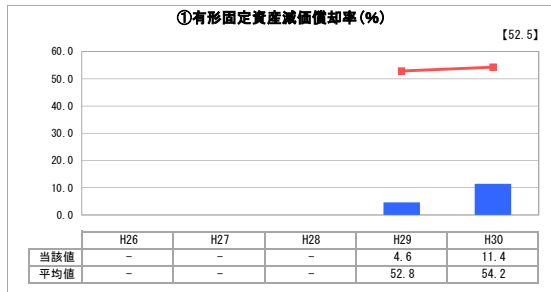
- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）

【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	平成29 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

眼科の専門病院として、標準医療から最先端の高度医療まで地域医療を高い水準で担うとともに、眼疾患に係る治験・臨床研究を推進する。また、重篤な眼疾患から社会生活へ復帰を支援するワンストップセンターとしての役割を担っている。
*平成29年12月開院

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成30年度においては、病床利用率、患者1人1日当たり収益が前年度を上回ったことにより収支が改善し、経常収支比率、医療収支比率いずれも100%を上回った。当初計画では開院3年目の黒字化を目標としていたが、1年前倒しで達成した。

眼科単科病院のため、平均値との比較は困難であるが、患者1人1日当たり収益は入院・外来ともに良好な数値で推移している。また、職員給与と費対医療収益比率については、前年度は開業前準備費用を含んでいたことから高い数値となったが、通年化に伴い大幅に低下した。

2. 老朽化の状況について

平成29年12月の開院時に新たに建物、医療機器等を整備したため、有形固定資産減価償却率、器械備品減価償却率ともに平均値を大きく下回っている。

全体総括

平成30年度は黒字決算となったが、黒字を維持していくためには、患者1人1日当たり収益等のさらなる向上を図っていく必要がある。そのため、診療体制の強化、手術枠の増等に取り組んでいるところであり、4病院のスケールメリットを活かした費用の削減等とあわせて、今後もより一層の経営改善を図っていく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成30年度決算）

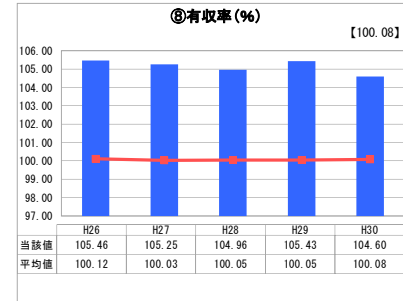
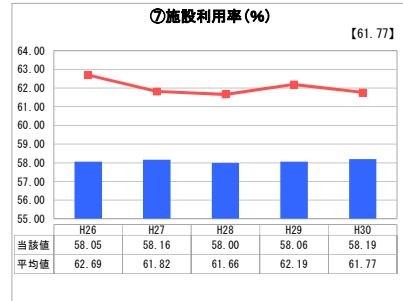
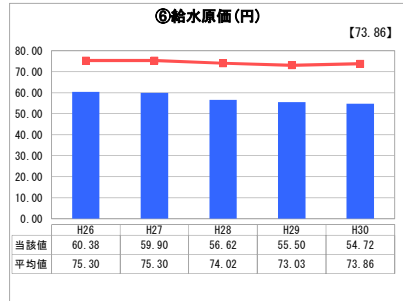
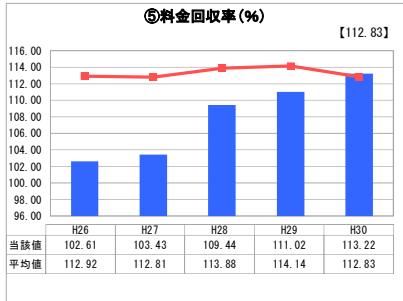
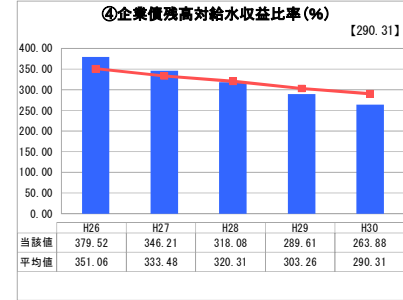
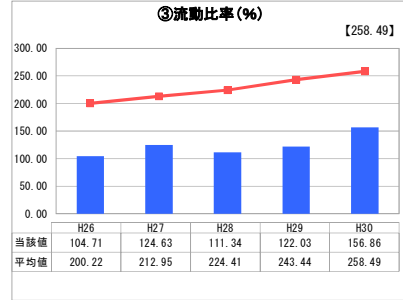
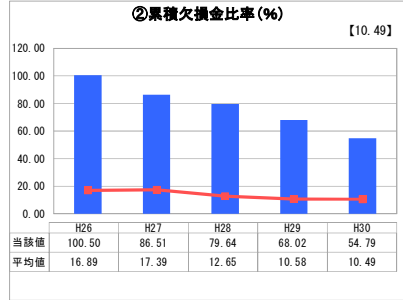
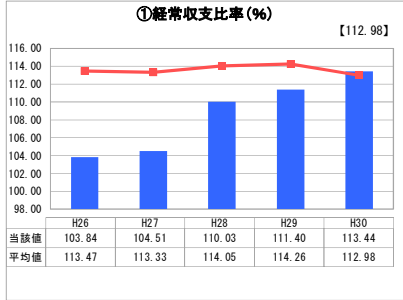
兵庫県 阪神水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	67.21	99.89	0	

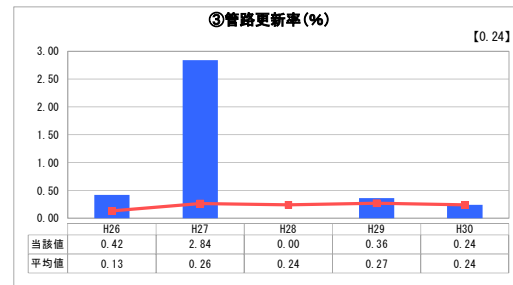
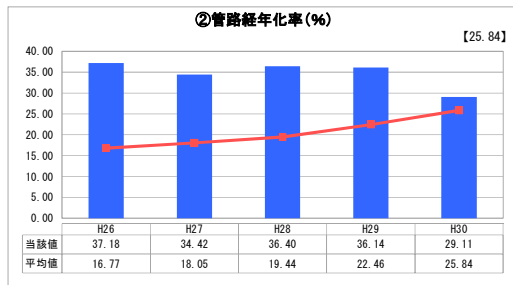
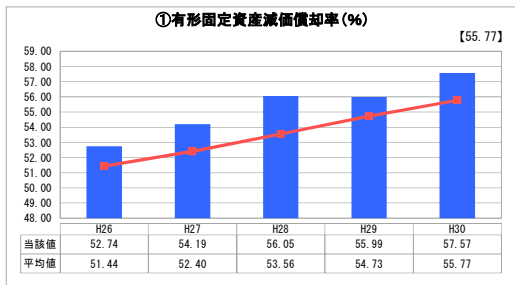
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,794,614	466.45	5,991.24

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均	

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当企業団は、昭和11年の設立以降、発展を続ける構成員の水需要に対応し、安定供給を確保するため、拡張事業や水源開発事業などの大規模な投資を進めてきたが、それらの財源として、企業債や内部留保資金を活用し、長期に渡って投資を回収する方針の下、構成員の受水費負担の軽減、平準化に努めてきた。

このような背景から、特に②累積欠損金比率が平均値を大きく上回っているが、職員数の削減、高金利企業債の繰上償還等による費用削減、資産の有効活用等による収益確保策などの経営改善策に取り組んだ結果、数値は年々改善しており、①経常収支比率については今年度平均値を上回り、⑥給水原価についても既に平均値を下回っており、⑤料金回収率も100%を超えている。なお、③流動比率については平均値よりは低いものの、100%を上回っており、短期的な支払能力には問題はない。

④企業債残高対給水収益比率については、企業債の繰上償還や新たな借入の抑制に努めた結果、平成28年度以降は平均値を下回ることができた。

⑦施設利用率については、水需要の減少等により平均値を下回っているが、予備力を活用することにより構造物及び管路の更新を進めていくこととしている。

なお、⑧有収率が100%を上回っているのは、当企業団が責任水量制を採用しており、給水収益の基礎となる分賦基本水量(=有収水量)が実績給水量を上回っているためである。

2. 老朽化の状況について

当企業団は、設立が昭和11年と古いこともあり、①有形固定資産減価償却率、②管路経年率ともに平均より高くなっている。

③管路更新率については、当企業団の管路は口径が大きいものが多いため、更新工事の工期が複数年に渡ることや、更新工事に伴う断水の影響が大きいことから、指標値を一定にすることは困難であるが、施設整備計画を策定し、これに基づき計画的に更新を進めることにより、管路の強靱化に努めている。

全体総括

経営状況についてはおおむね改善傾向にあるものの、人口減少等により水需要が低下する中で、施設の老朽化や、災害リスク対策等に係る財政需要への対応等が課題となっている。

これらの課題に適切に対応し、今後も安全な水の安定供給を持続していくため、平成29年度末に策定した「水道用水供給ビジョン2017」及び「水道用水供給ビジョン2017に基づくアクションプラン」を踏まえ、各種施策を推進していくこととしている。